

# 日本消防



- 第22回全国女性消防操法大会に優勝して
- 「消防団応援の店」現地ルポ

□ 絵 平成28年 消防出初式

新春のご挨拶 .....	(公財)日本消防協会 会長 秋本敏文	1
年頭の辞 .....	総務大臣 高市早苗	2
年頭の辞 .....	消防庁長官 佐々木敦朗	3
年頭にあたり .....	全国消防長会 会長 高橋淳	4
平成27年秋の叙勲伝達式・褒章伝達式 .....	総務省消防庁	5
東西南北(滋賀県)「毎々が 防災元年 皆で協力 防災活動！」.....	草津市消防団 団長 杉江 肇	20
東西南北(三重県)「自然豊かな郷土を守るために」.....	津市消防団 白山方面団長 森田政彦	22
東西南北(沖縄県)「市民の安心安全を守る為に！」.....	糸満市消防団 団長 新垣幸生	24
シンフォニー (神奈川県)「全ては定例会から～」.....	伊勢原市消防団 本団 班長 石井弦巳	26
第22回全国女性消防操法大会に優勝して .....	福岡市早良女性消防隊 隊長 大野慶子	28
「消防団応援の店」現地ルポ 「えひめ愛顔(えがお)で消防団員応援プロジェクト事業」を訪ねて .....	赤羽消防団 副団長 小澤浩子	31
「消防団を中核とした地域防災力の充実強化の在り方に関する答申」について(消防審議会) .....	総務省消防庁総務課	35
平成27年版消防白書の概要 .....	総務省消防庁総務課	37
文化財防火デー .....	総務省消防庁予防課	42
「消防団員入団促進キャンペーン」の実施 .....	総務省消防庁地域防災室	43
うちの名物団員 .....	記事記載各県	44
消防団の広場(北海道)「結成20周年目の操法大会」 .....	遠軽地区広域組合遠軽町消防団 丸瀬布分団 部長 小野 都	46

編集後記

## 表紙写真説明

### 「史跡草津本陣」

東海道五十三次のうち、江戸より数えて52番目の宿場町で、東海道と中山道が分岐・合流している交通の要衝でした。

明治時代以降、建物は郡役所や公民館として使用されていましたが、旧姿をよくとどめているとして、昭和24年に国の史跡に指定され、全国に残る本陣の中でも最大規模を有しており、現在では、見学やイベント開催により多くの方々を訪れます。

(滋賀県草津市)

# 平成28年消防出初式



1月5日(火)周南市消防出初式



1月9日(土)田原市消防出初式



1月6日(水)東京消防出初式



1月10日(日)深谷市消防団出初式



1月10日(日)入間東部地区消防組合消防出初式



1月7日(木)佐井村消防団出初式



1月5日(火)高山市消防出初式



1月10日(日)ひたちなか市消防出初式



1月10日(日)熊取町消防出初め式



1月10日(日)本庄市消防団出初式



1月9日(土)守谷市消防出初式



1月10日(日)西入間広域消防組合消防団出初式



1月9日(土)常陸太田市消防出初め式



1月10日(日)大阪市消防出初式



1月10日(日)志木市消防出初式

# 新春のご挨拶

(公財)日本消防協会 会長 秋本 敏文



## 新たな消防防災体制づくりへ

謹んで新春のお慶びを申し上げますとともに、日夜、地域の安全のためご尽力頂いている全国の消防関係の方々から敬意を表し、感謝申し上げます。

さて、今年は、あの東日本大震災から5年を迎えます。その教訓をいかして、どのような災害があっても生命を守り抜くことができる消防防災体制の整備を目指す新しい法律、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が成立して今年は3年を迎えます。

東日本大震災後も様々な自然災害が相次ぎ、住宅火災等も後を絶ちません。今年は節目の年という思いのもと、新しい法律の趣旨等をいかしながら、関係者一同協力して、消防体制の一層の充実強化を進めなければならないと思います。この場合に根幹をなすのは、常備消防、消防団であります。100年以上も前から消防団は全国に設置され、我が国消防の基礎が作られました。そして、第二次大戦後、新たな消防制度のもとで、全国的な常備化が実現し、特に阪神淡路大震災後の緊急消防援助隊の発足を契機とする装備の改善等により常備消防が一段と充実されました。これらが日本消防の第1期及び第2期と考えられるのではないかと思います。こうして築き上げられてきた常備消防と消防団が十分連携を取りながら中心的な役割を果たさなければなりません。そのうえで、新法の趣旨をいかすこれからの消防防災体制の整備は、いわば日本消防第3期のスタートと考えられるのではないかと思います。それは、消防機関が活躍するだけでなく、地域の住民の皆さん、企業、団体等の皆さんなど、地域の総力を結集する地域防災力の充実強化を目指す、その際に、消防機関が技術的な指導などで中心的な役割を果たす、言い換えれば、消防機関と地域の皆さんが一体となった消防防災体制を作っていくということだと思えます。これまでもそのような活動をしてきましたが、これを今後の大きな流れとしてはっきり認識し、そのために必要なことを着実に実施するということになれば、新たな大きな意味を持つことになるでしょう。

このことは、近年の災害の状況などからみて、防災活動はそれぞれの地域の自然的、社会的諸条件に応じたキメ細かな対応が必要であり、防災の原点はまさに地域にあるという実感からも必要性が増していると思えます。

このため、それぞれの地域の災害想定、避難などの具体的な防災活動の実施方法などの相談を進める動きを推進したり、また、世界各国でもこのことが課題とされているようですので、今年10月、「地域防災と消防団」というおそらく世界初の国際シンポジウムを開催することとしています。

諸先輩の絶え間ないご尽力によって今日の日本消防があります。平成28年という年も将来の日本消防の発展に貢献することとなりますよう、消防関係の皆さんとご一緒に、今年も様々な活動をしてまいりたいと考えております。

新年が皆様にとって良い年でありますように、そして全国各地が無事平穏でありますようお祈りして、新年のご挨拶といたします。

# 年 頭 の 辞

総務大臣 高市 早苗



平成28年の新春を迎え、お慶びを申し上げます。

全国の消防防災関係の皆様が、火災をはじめ様々な災害から地域住民の皆様の安心・安全を守るため、昼夜を問わずご尽力いただいていることに対し、深く感謝申し上げます。

我が国の消防は、皆様の日頃からのご活動の積み重ねにより、着実な発展を遂げ、国民から厚い信頼を得ています。これは、数多くの先人の方々の消防に対する限りない情熱と、幾多の災害における目覚ましいご活躍の成果であると考えており、心から敬意を表します。

昨年は、5月の口永良部島噴火や9月の関東・東北豪雨などの災害が発生しました。また、東日本大震災から今年で5年目を迎え、今後は、首都直下地震や南海トラフ地震等の発生が危惧されています。

このため、消防行政を所管する大臣として、今後の大規模災害等に備え、昨年に創設20周年を迎えた緊急消防援助隊の大幅増隊や、多様化・高度化する消防需要に対応するための常備消防力の充実強化、消防団を中核とした地域防災力の充実強化などに取り組んでまいります。

その中でも、消防団の充実強化につきましては、昨年2月に、すべての都道府県知事及び市区町村長に大臣書簡を発出し、消防団員確保に向けた一層の取組のほか、消防団員の処遇改善などについて要請いたしました。また、日本経済団体連合会等の経済団体に対しても、就職時の消防団活動の評価などについて、理解と協力を呼びかけました。

今後も、総務省は、消防団の充実に力を注いでまいります。

消防防災関係の皆様におかれましては、引き続き、消防防災・危機管理体制の強化や地域防災力の維持向上のために一層のご尽力を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、消防防災関係の皆様と御家族様のご健康とお幸せをお祈り申し上げます。

# 年 頭 の 辞

消防庁長官 佐々木 敦朗



平成28年の新春を迎えるに当たり、平素から地域の安心・安全を守るため、消防防災活動や消防関係団体業務などにご尽力いただいております全国の消防関係者の皆様に、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

我が国の消防は、先人のたゆまぬ努力の積み重ねにより、着実に進展し、国民の安心・安全の確保に大きな役割を果たしてまいりました。

一方、昨年は、口永良部島の噴火をはじめ全国的に火山活動の活発化が見られたほか、夏には各地で大雨被害が発生し、特に9月の関東・東北豪雨では茨城県常総市において鬼怒川の堤防が決壊するなど、甚大な被害がもたらされました。

また、川崎市の簡易宿泊所火災や広島市の飲食店火災など、多数の方が犠牲となる火災も発生しました。さらに、猛暑による熱中症の救急搬送人員数も、依然として高止まりしています。

首都直下地震や南海トラフ地震などの大規模地震の発生が危惧される今日、消防に対する国民の期待はますます高まっております。また、社会構造の変化に伴い複雑多様化、高度化する事故から、国民の生命、身体及び財産を守るためには、消防防災体制を更に強化していく必要があります。

このため、消防庁では、緊急消防援助隊及び常備消防力の充実強化をはじめ、消防団をはじめとする多様な主体による地域防災力の充実強化や火災予防対策の推進、消防防災分野における女性の活躍促進などを中心とした施策に取り組んでまいります。

あわせて、今年開催される伊勢志摩サミットにおける消防・救急体制の確保や、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会等の開催に向けた大都市等の安心・安全対策の推進など、国際会議や大規模イベントに対応するための危機管理体制の充実強化も図ってまいります。

また、東日本大震災の発生から今年で5年となりますが、被災地では、依然として厳しい状況の中で消防防災活動を強いられている消防本部もあります。被災地における消防防災体制の充実強化も、引き続き手を緩めることなく推進してまいります。

皆様方におかれましては、我が国の消防防災・危機管理体制の更なる発展と、国民が安心して暮らせる安全な地域づくりのために、より一層のご支援とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

皆様のますますのご健勝とご発展を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

# 「年頭にあたり」

全国消防長会会長 高橋 淳



平成28年の輝かしい新春を迎え、全国の消防関係者の皆様に謹んで新年のお慶びを申し上げます。

消防団員の皆様方におかれましては日々の仕事の傍ら、様々な災害から住民の生命・身体を守るため、献身的に消防団業務に取り組んでいただき、心より感謝申し上げます。また、震災等の大規模災害発生時には、関係機関と連携した救助活動を行うなど、昼夜を分かたない多大なご尽力を賜っているところでございます。

さて、昨年の国内における災害状況を顧みますと、全国各地において地震や台風、集中豪雨等の自然災害が猛威をふるい、9月に発生した関東・東北豪雨では甚大な被害が生じたほか、簡易宿泊所や雑居ビルにおける火災により、多くの尊い人命と貴重な財産が失われました。

また、南海トラフ巨大地震や首都直下地震の発生も危惧されているほか、全国各地で火山活動が活発化しており、警戒レベルが引き上げられるなど、地域住民の生活に憂いを及ぼしているところでございます。

こうした状況の中、平成25年に制定された「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」では、消防団の皆様が「地域防災力の中核として欠くことのできない代替性のない存在」と位置づけられ、その重要性がより明確にされ今後ますますの活躍が期待されています。

全国消防長会では、地域の総合的な防災力の強化を中心とした震災等大規模災害対策や、緊急消防援助隊の効果的運用による消防広域応援体制の強化を図っているところでございます。また、災害現場で発生した受傷事故の教訓を踏まえ、再発防止の安全管理対策や、災害現場で使用する消防資器材を充実させるなど、消防団の皆様が災害現場で活動しやすい環境の提供を進めてまいります。

今後も、住民が安心して暮らせる社会の実現のために、消防団の皆様方をはじめとする関係団体と連携をより緊密にし、各種施策の展開に全力を傾注してまいりますので、引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様方が消防防災力の更なる向上のため、各団長を中心とした地域の防災リーダーとしてますます活躍されることに期待し、本年が災害のない平穏で幸多き一年でありますよう心からご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。



# 平成27年秋の叙勲伝達式・褒章伝達式

総務省消防庁

## ◇秋の叙勲（消防関係）

平成27年11月11日（水）、ニッショーホールにおいて、平成27年秋の叙勲（消防関係）伝達式が盛大に挙行されました。

受章された方々は、永年にわたり国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するとともに、消防力の強化、充実に尽力され、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与した消防関係者の方々です。

- 瑞宝小綬章・・・ 18名
- 旭日双光章・・・ 3名
- 瑞宝双光章・・・ 44名
- 瑞宝単光章・・・ 509名



## ◇秋の褒章（消防関係）

平成27年11月13日（金）、スクワール麹町において、平成27年秋の褒章（消防関係）伝達式が盛大に挙行されました。

受章された方々で紅綬褒章は、災害活動等において、自己の危険を顧みず人命救助に尽力した方々、黄綬褒章は、永年にわたり消防機器の研究開発及び製造販売業務や消防設備保守業務等に精励するとともに、業界の発展に大きく寄与した方々、藍綬褒章は、消防団員や婦人（女性）防火クラブ員として、永年にわたり消防防災活動に献身的に努力し、消防の発展に大きく寄与した方々です。

- 紅綬褒章・・・ 2名
- 黄綬褒章・・・ 6名
- 藍綬褒章・・・ 86名



# 平成27年秋の叙勲受章者名簿(消防関係)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 双	北 海 道	元 富良野広域連合 上富良野消防団 団長	赤 川 昇 (72)	瑞 単	北 海 道	元 上川中部消防組合 上川消防団 副団長	岡 崎 勝 征 (72)
瑞 双	北 海 道	元 東十勝消防事務組 合幕別消防団 団長	有 澤 章 (75)	瑞 単	北 海 道	元 釧路西部消防組合 音別消防団 副団長	岡 崎 春 光 (76)
瑞 双	北 海 道	元 小樽市消防団 団長	島 元 隆 男 (76)	瑞 単	北 海 道	元 留萌消防組合小平 消防団 副団長	岡 野 政 弘 (70)
瑞 双	北 海 道	元 八雲町熊石消防団 団長	島 谷 喜 人 (67)	瑞 単	北 海 道	元 千歳市消防団 副団長	角 田 のり 憲 (69)
瑞 双	北 海 道	元 北留萌消防組合 天塩町消防団 団長	西 畑 義 勝 (72)	瑞 単	北 海 道	元 恵庭市消防団 分団長	北 川 いさお (72)
瑞 双	北 海 道	元 岩内・寿都地方消 防組合岩内消防団 団長	原 正 治 (77)	瑞 単	北 海 道	元 檜山広域行政組合 厚沢部町消防団 分団長	木 下 いさお (72)
瑞 双	北 海 道	元 岩内・寿都地方消 防組合共和消防団 団長	原 田 勇 雄 (71)	瑞 単	北 海 道	元 胆振東部消防組合 鶴川消防団 分団長	久保田 建 一 (69)
瑞 双	北 海 道	元 南十勝消防事務組 合中札内消防団 団長	森 田 進 (66)	瑞 単	北 海 道	元 胆振東部消防組合 厚真消防団 団長	藏 重 豊 一 (76)
瑞 単	北 海 道	元 根室北部消防事務 組合別海消防団 副団長	伊 藤 新 介 (72)	瑞 単	北 海 道	元 西十勝消防組合 芽室消防団 副団長	黒 田 晋 督 (72)
瑞 単	北 海 道	元 西胆振消防組合牡 警消防団 分団長	乾 清 (69)	瑞 単	北 海 道	元 深川地区消防組合 沼田消防団 副団長	小 泉 清 彦 (71)
瑞 単	北 海 道	元 斜里地区消防組合 斜里消防団 団長	上 野 敏 雄 (70)	瑞 単	北 海 道	元 南宗谷消防組合 中頓別消防団 副団長	斉 藤 敏 敏 (76)
瑞 単	北 海 道	元 東十勝消防事務組 合豊頃消防団 分団長	内 山 寛 (79)	瑞 単	北 海 道	元 札幌市中央消防団 分団長	齋 藤 博 志 (84)
瑞 単	北 海 道	元 羊蹄山ろく消防組 合真狩消防団 分団長	佐々木 順 一 (76)	瑞 単	北 海 道	元 南空知消防組合 長沼消防団 副団長	難 波 たかし 隆 (76)
瑞 単	北 海 道	元 根室北部消防事務 組合標津消防団 副団長	澤 向 博 (72)	瑞 単	北 海 道	元 札幌市白石消防団 分団長	沼 田 富 雄 (84)
瑞 単	北 海 道	元 遠軽地区広域組合 湧別町消防団 副団長	島 田 辰 雄 (76)	瑞 単	北 海 道	元 夕張市消防団 分団長	信 太 繁 (76)
瑞 単	北 海 道	元 旭川市消防団 分団長	上 樂 隆 利 (73)	瑞 単	北 海 道	元 函館市恵山消防団 副団長	野 呂 勝 一 (70)
瑞 単	北 海 道	元 士別地方消防事務 組合和寒町消防団 団長	白 土 春 夫 (72)	瑞 単	北 海 道	元 旭川市消防団 副団長	藤 原 正 光 (72)
瑞 単	北 海 道	元 石狩北部地区消防 事務組合石狩消防 団副団長	高 橋 秋 夫 (71)	瑞 単	北 海 道	元 帯広市消防団 分団長	藤 森 繁 夫 (76)
瑞 単	北 海 道	元 深川地区消防組合 深川消防団 分団長	高 柳 洋 (73)	瑞 単	北 海 道	元 北後志消防組合 積丹消防団 副団長	本 間 博 之 (72)
瑞 単	北 海 道	元 函館市函館消防団 副団長	田 中 鉄 夫 (72)	瑞 単	北 海 道	元 苫小牧市消防団 分団長	松 平 秀 雄 (70)
瑞 単	北 海 道	元 檜山広域行政組合 乙畑町消防団 分団長	田 畑 眞 成 (71)	瑞 単	北 海 道	元 滝川地区広域消防 事務組合新十津川 消防団 団長	宮 井 忠 士 (73)
瑞 単	北 海 道	元 利尻礼文消防事務 組合利尻富士町消 防団副団長	俵 谷 芳 勝 (79)	瑞 単	北 海 道	元 釧路北部消防事務 組合弟子屈消防団 副団長	村 田 たかし 隆 (74)
瑞 単	北 海 道	元 日高西部消防組合 日高消防団 副団長	丹 羽 仁 光 (69)	瑞 単	北 海 道	元 日高中部消防組合 静内消防団 副団長	村 田 秀 之 (72)
瑞 単	北 海 道	元 江別市消防団 副分団長	長 光 雄 (70)	瑞 単	北 海 道	元 上川南部消防事務 組合上富良野消防 団副団長	山 川 しげる 繁 (73)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	北 海 道	元 南渡島消防事務組 合北斗消防団 分団長	山 田 泰 昭 (74)	瑞 単	青 森 県	元 青森市青森消防団 分団長	川 越 忠 志 (70)
瑞 小	青 森 県	元 八戸地域広域市町 村圏事務組合 消防正監	櫛 田 輝 美 (70)	瑞 単	青 森 県	元 三厩村消防団 分団長	川 村 英 祝 (72)
瑞 単	青 森 県	元 田子町消防団 分団長	芦 村 芳 美 (72)	瑞 単	青 森 県	元 鯉ヶ沢町消防団 分団長	後 藤 隆 男 (74)
瑞 単	青 森 県	元 野辺地町消防団 分団長	五十嵐 長 之 (73)	瑞 単	青 森 県	元 南部町消防団 副団長	佐々木 秀 道 (73)
瑞 単	青 森 県	元 深浦町消防団 副団長	石戸谷 毅 (72)	瑞 単	青 森 県	元 木造町消防団 団長	對 馬 千代春 (69)
瑞 単	青 森 県	元 階上町消防団 副団長	石 橋 國 夫 (70)	瑞 単	青 森 県	元 むつ市消防団 むつ消防団 分団長	中 村 ちから 力 (72)
瑞 単	青 森 県	元 蟹田町消防団 副団長	泉 清 衛 (70)	瑞 単	青 森 県	元 五所川原市消防団 分団長	前 田 信 義 (77)
瑞 単	青 森 県	元 弘前市消防団 副団長	猪 股 芳 英 (71)	瑞 双	岩 手 県	元 奥州市胆沢区消防 団 団長	菅 原 正 満 (73)
瑞 単	青 森 県	元 黒石市消防団 副団長	宇 野 韶 倫 (70)	瑞 単	岩 手 県	元 久慈市消防団 分団長	岩 花 政 男 (81)
瑞 単	青 森 県	元 東北町消防団 団長	大 坂 宏 (69)	瑞 単	岩 手 県	元 久慈市消防団 分団長	勿 道 操 (77)
瑞 単	青 森 県	元 八戸市消防団 分団長	小笠原 英 夫 (75)	瑞 単	岩 手 県	元 八幡平市消防団 副団長	小野寺 千 誠 (69)
瑞 単	青 森 県	元 佐井村消防団 副分団長	加 賀 紀代志 (74)	瑞 単	岩 手 県	元 岩泉町消防団 副団長	小 原 道 彦 (69)

瑞 単	岩 手 県	元 陸前高田市消防団 分団長	菅 野 利 夫 (77)	瑞 単	岩 手 県	元 宮古市消防団 分団長	たて 館 下 等 (82)
瑞 単	岩 手 県	元 遠野市消防団 分団長	菊 池 今 男 (74)	瑞 単	岩 手 県	元 平泉町消防団 分団長	千 槩 征 紀 (71)
瑞 単	岩 手 県	元 花巻市消防団 副団長	小 松 健次郎 (72)	瑞 単	岩 手 県	元 宮古市消防団 分団長	なか 伸 田 誠次郎 (74)
瑞 単	岩 手 県	元 山田町消防団 分団長	こ 尾 實 (72)	瑞 単	岩 手 県	元 洋野町消防団 分団長	の 野 場 進 一 (73)
瑞 単	岩 手 県	元 滝沢村消防団 団長	さい 齊 藤 慶 二 (69)	瑞 単	岩 手 県	元 釜石市消防団 副分団長	ひら 平 野 幹 雄 (70)
瑞 単	岩 手 県	元 盛岡市消防団 分団長	さい 齋 藤 進 (72)	瑞 単	岩 手 県	元 普代村消防団 分団長	み 見 嶽 重次郎 (77)
瑞 単	岩 手 県	元 一関市消防団 分団長	さ 佐々木 源 輔 (83)	瑞 小	宮 城 県	元 仙台市 消防正監	たか 高 橋 稔 (70)
瑞 単	岩 手 県	元 山田町消防団 副団長	さ 佐々木 清 通 (79)	瑞 双	宮 城 県	元 大崎市消防団 団長	くら 倉 田 いづみ 巖 (78)
瑞 単	岩 手 県	元 東山町消防団 分団長	ず 菅 原 隆 雄 (84)	瑞 双	宮 城 県	元 大崎市消防団 副団長	こ 小 泉 政 敏 (73)
瑞 単	岩 手 県	元 松尾村消防団 副団長	たか 高 橋 美 義 (78)	瑞 双	宮 城 県	元 村田町消防団 団長	さ 佐々木 皎 喜 (78)
瑞 単	岩 手 県	元 盛岡市消防団 副団長	たけ 竹 林 渉 (77)	瑞 双	宮 城 県	元 多賀城市消防団 団長	さ 佐 藤 甚一郎 (77)
瑞 単	岩 手 県	元 二戸市消防団 分団長	たち 立 花 一 成 (72)	瑞 単	宮 城 県	元 七ヶ宿町消防団 部長	あき 秋 葉 馨 (79)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	宮 城 県	元 美里町消防団 副団長	安 部 孝 (70)	瑞 単	宮 城 県	元 多賀城市消防団 分団長	櫻 田 榮 松 (78)
瑞 単	宮 城 県	元 松島町消防団 分団長	石 川 征 一 (75)	瑞 単	宮 城 県	元 登米市登米町消防団 副団長	佐 藤 辰 夫 (75)
瑞 単	宮 城 県	元 女川町消防団 分団長	石 森 昌 義 (75)	瑞 単	宮 城 県	元 桃生町消防団 副団長	佐 藤 嘉 男 (70)
瑞 単	宮 城 県	元 登米市中田町消防団 副団長	大 塚 辰 郎 (75)	瑞 単	宮 城 県	元 栗原市消防団 分団長	菅 原 博 (77)
瑞 単	宮 城 県	元 川崎町消防団 分団長	大 宮 雄 幸 (79)	瑞 単	宮 城 県	元 巨理町消防団 副団長	高 野 誠 一 (70)
瑞 単	宮 城 県	元 歌津町消防団 分団長	小 野 忠 一 郎 (78)	瑞 単	宮 城 県	元 大崎町消防団 副団長	多 田 定 雄 (76)
瑞 単	宮 城 県	元 栗原市消防団 分団長	片 倉 順 雄 (74)	瑞 単	宮 城 県	元 仙台市宮城野消防団 副団長	土 佐 清 志 (83)
瑞 単	宮 城 県	元 仙台市青葉消防団 副団長	川 内 正 彦 (81)	瑞 単	宮 城 県	元 仙台市宮城野消防団 団長	福 来 隆 (71)
瑞 単	宮 城 県	元 仙台市青葉消防団 団長	熊 谷 繁 勝 (70)	瑞 単	宮 城 県	元 丸森町消防団 副団長	村 上 寛 (71)
瑞 単	宮 城 県	元 登米市消防団 副団長	後 藤 正 士 (77)	瑞 単	宮 城 県	元 気仙沼市消防団 分団長	吉 田 貞 夫 (75)
瑞 単	宮 城 県	元 利府町消防団 分団長	小 松 一 雄 (73)	瑞 単	秋 田 県	元 大館市消防団 分団長	安 部 一 男 (82)
瑞 単	宮 城 県	元 涌谷町消防団 分団長	佐 久 間 信 (74)	瑞 単	秋 田 県	元 秋田市消防団 副団長	櫻 政 良 (76)

瑞 単	秋 田 県	元 増田町消防団 副団長	小 野 寺 金 十 郎 (73)	瑞 単	秋 田 県	元 天王町消防団 分団長	戸 田 秋 一 (75)
瑞 単	秋 田 県	元 三種町消防団 副団長	鴨 田 道 幸 (68)	瑞 単	秋 田 県	元 横手市消防団 分団長	中 川 原 誠 策 (74)
瑞 単	秋 田 県	元 美郷町消防団 分団長	小 林 正 敏 (77)	瑞 単	秋 田 県	元 仙北市消防団 団長	橋 本 左 武 郎 (71)
瑞 単	秋 田 県	元 大仙市消防団 副団長	小 松 正 (71)	瑞 単	秋 田 県	元 五城目町消防団 副団長	畑 澤 甚 一 (73)
瑞 単	秋 田 県	元 秋田市消防団 分団長	佐 々 木 征 男 (76)	瑞 単	秋 田 県	元 田沢湖町消防団 副団長	藤 川 健 一 (71)
瑞 単	秋 田 県	元 北秋田市消防団 副団長	庄 司 林 兵 衛 (72)	瑞 単	秋 田 県	元 大仙市消防団 分団長	藤 田 昭 義 (75)
瑞 単	秋 田 県	元 秋田市消防団 副団長	進 藤 吉 兵 衛 (78)	瑞 単	山 形 県	元 遊佐町消防団 分団長	後 藤 喜 八 (67)
瑞 単	秋 田 県	元 秋田市消防団 副団長	鈴 木 為 彦 (75)	瑞 単	山 形 県	元 真室川町消防団 分団長	佐 藤 栄 一 (67)
瑞 単	秋 田 県	元 神岡町消防団 副団長	鈴 木 久 雄 (72)	瑞 単	山 形 県	元 酒田市消防団 分団長	佐 藤 修 (68)
瑞 単	秋 田 県	元 合川町消防団 団長	関 多 悦 (72)	瑞 単	山 形 県	元 大蔵村消防団 分団長	菅 野 明 (66)
瑞 単	秋 田 県	元 大仙市消防団 副団長	高 橋 尊 雄 (72)	瑞 単	山 形 県	元 金山町消防団 分団長	丹 俊 博 (66)
瑞 単	秋 田 県	元 羽後町消防団 分団長	照 井 久 男 (82)	瑞 単	山 形 県	元 飯豊町消防団 分団長	手 塚 與 右 衛 門 (67)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	山 形 県	元 上山市消防団 分団長	中 村 伸 一 (69)	瑞 単	福 島 県	元 只見町消防団 団長	馬 場 光 男 (65)
瑞 単	山 形 県	元 村山市消防団 分団長	三 原 勝 (67)	瑞 単	福 島 県	元 福島市消防団 分団長	平 井 正 徳 (75)
瑞 双	福 島 県	元 伊達市消防団 副団長	東 城 藤 吉 (72)	瑞 単	福 島 県	元 会津若松市消防団 分団長	吉 川 洋 逸 (78)
瑞 双	福 島 県	元 南会津町消防団 副団長	目 黒 哲 雄 (65)	瑞 単	福 島 県	元 葛尾村消防団 分団長	松 本 英 正 (74)
瑞 単	福 島 県	元 桑折町消防団 分団長	浅 野 義 雄 (76)	瑞 単	福 島 県	元 いわき市消防団 分団長	矢 吹 政 信 (72)
瑞 単	福 島 県	元 福島市消防団 副団長	阿 部 征 治 (72)	瑞 単	福 島 県	元 福島市消防団 分団長	山 田 孝 義 (78)
瑞 単	福 島 県	元 熱塩加納村消防団 分団長	岩 下 隆 (82)	瑞 単	福 島 県	元 二本松市消防団 団長	遊 佐 喜 雄 (71)
瑞 単	福 島 県	元 西会津町消防団 分団長	加 藤 勝 (67)	瑞 単	福 島 県	元 いわき市消防団 分団長	吉 田 一 榮 (77)
瑞 単	福 島 県	元 南相馬市消防団 分団長	小 林 良 夫 (69)	瑞 単	福 島 県	元 下郷町消防団 副団長	渡 部 義 輝 (68)
瑞 単	福 島 県	元 いわき市消防団 分団長	齋 藤 修 平 (78)	瑞 双	茨 城 県	元 潮来市消防団 団長	泉 孝 友 (70)
瑞 単	福 島 県	元 猪苗代町消防団 副団長	佐 瀬 浩 一 (67)	瑞 双	茨 城 県	元 常陸太田市消防団 団長	引 田 勝 美 (73)
瑞 単	福 島 県	元 郡山市消防団 分団長	佐 藤 榮 一 (77)	瑞 単	茨 城 県	元 内原町消防団 副団長	江 幡 愼 一 (82)

瑞 単	茨 城 県	元 常陸大宮市山方消防団 団長	片 野 克 紀 (66)	瑞 単	群 馬 県	元 高崎市消防団 副団長	及 川 利 美 一 (69)
瑞 単	茨 城 県	元 那珂湊市消防団 分団長	黒 澤 一 郎 (81)	瑞 単	群 馬 県	元 榛名町消防団 団長	清 水 悟 (66)
瑞 単	茨 城 県	元 つくば市消防団 副団長	中 根 秀 雄 (65)	瑞 単	群 馬 県	元 草津町消防団 団長	永 谷 文 治 (64)
瑞 単	茨 城 県	元 筑西市消防団 副団長	野 寺 友 行 (65)	瑞 単	群 馬 県	元 みどり市大間々消防団 団長	樋 口 正 則 (66)
瑞 単	茨 城 県	元 水戸市消防団 副団長	人 見 重 明 (65)	瑞 単	群 馬 県	元 大泉町消防団 副団長	湯 澤 政 三 (68)
瑞 単	茨 城 県	元 鉾田市消防団 団長	二 重 作 惣 司 (67)	瑞 小	埼 玉 県	元 埼玉西部広域事務組合 消防正監	新 井 芳 久 (71)
旭 双	栃 木 県	現 栃木県県人防火ク ラブ連合会会長	木 沢 トモ子 (70)	瑞 小	埼 玉 県	元 上尾市 消防正監	小 川 和 雄 (74)
瑞 単	栃 木 県	元 那須町消防団 団長	大 平 廣 (67)	瑞 小	埼 玉 県	元 川口市 消防正監	清 宮 健 夫 (74)
瑞 単	栃 木 県	元 那須烏山市南那須 消防団 団長	小 鍋 恒 男 (67)	瑞 双	埼 玉 県	元 蕨市消防団 団長	岡 田 正 信 (73)
瑞 単	栃 木 県	元 藤原町消防団 分団長	齋 藤 文 男 (82)	瑞 単	埼 玉 県	元 越谷市消防団 分団長	櫻 本 英 男 (75)
瑞 単	栃 木 県	元 栃木市消防団 分団長	橋 本 光 男 (76)	瑞 単	埼 玉 県	元 戸田市消防団 副団長	熊 木 勝 (72)
瑞 双	群 馬 県	元 館林地区消防組合 消防団組合消防団 長兼邑楽消防団 団長	櫻 井 征 男 (70)	瑞 単	埼 玉 県	元 熊谷地区消防組合 熊谷消防団 副団長	黒 澤 英 一 (80)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	埼 玉 県	元 熊谷市消防団 副団長	田 口 清 (72)	瑞 単	千 葉 県	元 流山市消防団 副団長	神 田 弘 (70)
瑞 単	埼 玉 県	元 さいたま市消防団 分団長	武 内 榮 久 (78)	瑞 単	千 葉 県	元 大多喜町消防団 団長	高 梨 喜 一郎 (70)
瑞 単	埼 玉 県	元 加須市消防団 団長	樽 見 義 一 (68)	瑞 単	千 葉 県	元 勝浦市消防団 副団長	高 梨 喜 明 (73)
瑞 単	埼 玉 県	元 久喜市久喜消防団 団長	西 谷 友 孝 (66)	瑞 単	千 葉 県	元 鴨川市消防団 団長	長 谷 川 清 一 (67)
瑞 単	埼 玉 県	元 八潮市消防団 団長	平 野 光 一 (66)	瑞 単	千 葉 県	元 長生都市広城市町 村圏組合消防団 副団長	吉 野 実 (71)
瑞 単	埼 玉 県	元 白岡町消防団 副団長	深 澤 勇 (72)	瑞 小	東 京 都	元 東京消防庁 消防司監	濱 野 清 之 (70)
瑞 単	埼 玉 県	元 川口市消防団 副分団長	藤 波 武 雄 (81)	瑞 双	東 京 都	元 八王子市消防団 団長	浦 邊 博 (68)
瑞 小	千 葉 県	元 柏市 消防正監	小 林 進 (70)	瑞 双	東 京 都	元 江戸川消防団 団長	大 場 勇 (72)
瑞 小	千 葉 県	元 船橋市 消防正監	堀 次 郎 (70)	瑞 双	東 京 都	元 大森消防団 団長	當 麻 善 健 (81)
瑞 双	千 葉 県	元 山武市消防団 団長	花 澤 健 (68)	瑞 双	東 京 都	元 神田消防団 団長	中 田 禎 一 (81)
瑞 単	千 葉 県	元 大網白里町消防団 団長	石 原 實 (68)	瑞 双	東 京 都	元 金町消防団 団長	増 井 範 男 (70)
瑞 単	千 葉 県	元 御宿町消防団 副団長	神 定 善 男 (68)	瑞 単	東 京 都	元 浅草消防団 副団長	有 馬 清 和 (73)

瑞 単	東 京 都	元 赤羽消防団 分団長	大 垣 行 雄 (82)	瑞 単	東 京 都	元 深川消防団 分団長	高 橋 辰 雄 (86)
瑞 単	東 京 都	元 世田谷消防団 団長	大 里 義 男 (70)	瑞 単	東 京 都	元 中野消防団 副団長	谷 中 義 典 (70)
瑞 単	東 京 都	元 新宿消防団 分団長	大 沼 清 (77)	瑞 単	東 京 都	元 池袋消防団 副団長	玉 井 勝 (72)
瑞 単	東 京 都	元 志村消防団 副団長	加 藤 康 司 (73)	瑞 単	東 京 都	元 牛込消防団 副団長	峠 孝 久 (72)
瑞 単	東 京 都	元 板橋消防団 副団長	河 原 一 男 (75)	瑞 単	東 京 都	元 野方消防団 団長	長 野 正 勝 (71)
瑞 単	東 京 都	元 城東消防団 分団長	川 原 正 隆 (74)	瑞 単	東 京 都	元 田園調布消防団 分団長	根 本 武 司 (78)
瑞 単	東 京 都	元 小岩消防団 副団長	越 塚 金 一 (74)	瑞 単	東 京 都	元 日本橋消防団 副団長	野 村 博 (76)
瑞 単	東 京 都	元 葛西消防団 副団長	小 林 良 生 (73)	瑞 単	東 京 都	元 王子消防団 分団長	橋 本 昭 夫 (72)
瑞 単	東 京 都	元 芝消防団 分団長	近 藤 光 廣 (73)	瑞 単	東 京 都	元 目黒消防団 団長	橋 本 昭 男 (71)
瑞 単	東 京 都	元 上野消防団 分団長	笹 目 浩 右 (79)	瑞 単	東 京 都	元 蒲田消防団 分団長	茂 木 正 布 (76)
瑞 単	東 京 都	元 練馬消防団 分団長	篠 義 男 (76)	瑞 双	神 奈 川 県	元 川崎市 消防司監	山 口 仁 臣 (70)
瑞 単	東 京 都	元 奥多摩町消防団 団長	島 崎 文 雄 (72)	瑞 単	神 奈 川 県	元 川崎市高津消防団 分団長	石 塚 兼 義 (77)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	神 奈 川 県	元 横 浜 市 泉 消 防 団 副 団 長	大 貫 芳 夫 (76)	瑞 単	神 奈 川 県	元 横 浜 市 港 北 消 防 団 分 団 長	山 本 重 昌 (77)
瑞 単	神 奈 川 県	元 横 浜 市 港 南 消 防 団 副 団 長	織 茂 大 治 (75)	瑞 単	神 奈 川 県	元 横 浜 市 伊 勢 佐 木 消 防 団 団 長	山 本 建 明 (70)
瑞 単	神 奈 川 県	元 横 浜 市 寿 消 防 団 分 団 長	小 儀 一 長 (86)	瑞 小	新 潟 県	元 新 潟 市 消 防 正 監	青 木 孝 也 (70)
瑞 単	神 奈 川 県	元 横 浜 市 栄 消 防 団 副 団 長	佐 相 伊 佐 雄 (73)	旭 双	新 潟 県	現 (一財) 新 潟 県 消 防 設 備 協 会 理 事 長	早 川 武 美 (70)
瑞 単	神 奈 川 県	元 川 崎 市 中 原 消 防 団 分 団 長	佐 藤 千 助 (79)	瑞 単	新 潟 県	元 佐 渡 市 両 津 消 防 団 団 長	安 藤 清 治 (74)
瑞 単	神 奈 川 県	元 横 浜 市 南 消 防 団 分 団 長	鈴 木 國 男 (81)	瑞 単	新 潟 県	元 新 井 市 消 防 団 分 団 長	宇 野 正 一 (76)
瑞 単	神 奈 川 県	元 横 浜 市 山 手 消 防 団 副 分 団 長	芹 澤 幸 男 (80)	瑞 単	新 潟 県	元 五 泉 市 消 防 団 分 団 長	大 塚 健 一 (67)
瑞 単	神 奈 川 県	元 横 浜 市 旭 消 防 団 分 団 長	高 橋 喜 太 郎 (78)	瑞 単	新 潟 県	元 三 条 市 下 田 消 防 団 団 長	大 橋 純 修 (65)
瑞 単	神 奈 川 県	元 箱 根 町 消 防 団 副 団 長	中 條 工 (71)	瑞 単	新 潟 県	元 柏 崎 市 消 防 団 副 団 長	鴨 下 純 二 (68)
瑞 単	神 奈 川 県	元 横 須 賀 市 消 防 団 分 団 長	長 塚 武 光 (76)	瑞 単	新 潟 県	元 長 岡 市 山 古 志 消 防 団 団 長	川 上 重 昭 (66)
瑞 単	神 奈 川 県	元 平 塚 市 消 防 団 団 長	二 宮 高 見 (70)	瑞 単	新 潟 県	元 加 茂 市 消 防 団 分 団 長	川 田 直 樹 (71)
瑞 単	神 奈 川 県	元 横 浜 市 神 奈 川 消 防 団 分 団 長	山 田 昌 一 (79)	瑞 単	新 潟 県	元 上 越 市 消 防 団 副 団 長	小 山 富 男 (67)

瑞 単	新 潟 県	元 白 根 市 消 防 団 分 団 長	斉 藤 義 弘 (83)	瑞 単	富 山 県	元 魚 津 市 消 防 団 副 分 団 長	林 隆 助 (82)
瑞 単	新 潟 県	元 能 生 町 消 防 団 分 団 長	白 石 邦 男 (78)	瑞 単	富 山 県	元 富 山 市 消 防 団 副 団 長	牧 和 雄 (68)
瑞 単	新 潟 県	元 小 須 戸 町 消 防 団 分 団 長	鈴 木 市 英 (86)	瑞 単	富 山 県	元 黒 部 市 消 防 団 分 団 長	森 山 暁 昴 (79)
瑞 単	新 潟 県	元 南 魚 沼 市 消 防 団 副 団 長	鈴 木 直 樹 (68)	瑞 単	富 山 県	元 入 善 町 消 防 団 分 団 長	森 山 弘 吉 (78)
瑞 単	新 潟 県	元 阿 賀 町 消 防 団 分 団 長	長 谷 川 強 (73)	瑞 単	富 山 県	元 婦 中 町 消 防 団 分 団 長	若 林 庄 一 郎 (76)
瑞 単	新 潟 県	元 新 潟 市 消 防 団 副 団 長	古 井 文 雄 (66)	旭 双	石 川 県	元 (一社) 石 川 県 消 防 設 備 協 会 副 会 長	秋 田 力 (82)
瑞 単	新 潟 県	元 魚 沼 市 消 防 団 副 団 長	星 春 吉 (67)	瑞 双	石 川 県	元 穴 水 町 消 防 団 団 長	竹 越 利 益 (70)
瑞 単	富 山 県	元 富 山 市 消 防 団 分 団 長	伊 東 保 (82)	瑞 単	石 川 県	元 内 浦 町 消 防 団 副 団 長	梶 山 博 (71)
瑞 単	富 山 県	元 上 市 町 消 防 団 副 団 長	尾 崎 長 幸 (73)	瑞 単	石 川 県	元 羽 咋 市 消 防 団 分 団 長	楢 道 悦 洗 (73)
瑞 単	富 山 県	元 新 湊 市 消 防 団 副 分 団 長	澤 田 隆 美 (83)	瑞 単	石 川 県	元 加 賀 市 消 防 団 分 団 長	竹 野 勇 (72)
瑞 単	富 山 県	元 水 見 市 消 防 団 副 団 長	武 内 稔 (71)	瑞 単	石 川 県	元 金 沢 市 第 二 消 防 団 分 団 長	宮 岸 敬 治 (74)
瑞 単	富 山 県	元 滑 川 市 消 防 団 分 団 長	曲 野 弘 幸 (77)	瑞 単	石 川 県	元 宇 ノ 氣 町 消 防 団 団 長	山 口 知 宏 (70)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	福 井 県	元 敦賀美方消防組合 美浜消防団 団長	あき 秋 山 省 治 (68)	瑞 単	岐 阜 県	元 郡上市消防団 副団長	おし 鷺 谷 雅 之 (64)
瑞 単	福 井 県	元 南越消防組合南越 前消防団 分団長	かへ 壁 上 昇 一 郎 (76)	瑞 単	岐 阜 県	元 郡上市消防団 副団長	しみず 清水 口 和 男 (64)
瑞 単	福 井 県	元 勝山市消防団 分団長	ふし 藤 堂 正 幸 (75)	瑞 単	岐 阜 県	元 海津市消防団 団長	ち 千 種 正 彦 (64)
瑞 単	福 井 県	元 福井市消防団 分団長	へい 平 馬 範 夫 (68)	瑞 単	岐 阜 県	元 川上村消防団 団長	とう 東 野 廣 告 (66)
瑞 単	福 井 県	元 大野地区消防組合 和泉消防団 分団長	よお 米 倉 功 (79)	瑞 単	岐 阜 県	元 揖斐川町谷汲消防 団長	ひら 平 井 壽 人 (64)
瑞 単	山 梨 県	元 塩山市消防団 団長	あき 秋 原 義 次 (81)	瑞 単	岐 阜 県	元 蛭川村消防団 団長	むら 村 瀬 信 治 (64)
瑞 単	山 梨 県	元 三富村消防団 団長	さか 坂 本 眞 (76)	瑞 単	岐 阜 県	元 郡上市消防団 副団長	やま 山 田 孝 義 (64)
瑞 単	山 梨 県	元 上野原市消防団 副団長	はら 原 田 寛 治 (63)	瑞 単	静 岡 県	元 静岡市消防団 副団長	あ 安 部 亥 太 郎 (68)
瑞 小	長 野 県	元 長野市 消防正監	う 宇 都 宮 良 幸 (70)	瑞 単	静 岡 県	元 戸田村消防団 分団長	あま 天 野 銀 二 (73)
瑞 単	長 野 県	元 大岡村消防団 分団長	とこ 所 至 (61)	瑞 単	静 岡 県	元 富士市消防団 副団長	か 加 藤 秋 徳 (68)
瑞 単	長 野 県	元 松本市消防団 分団長	ね 根 石 豊 (65)	瑞 単	静 岡 県	元 蒲原町消防団 副団長	み 美 尾 功 (66)
瑞 単	長 野 県	元 須坂市消防団 団長	よ 依 田 浩 明 (61)	瑞 単	静 岡 県	元 静岡市消防団 副団長	や 八 木 好 男 (66)

瑞 単	静 岡 県	元 焼津市消防団 副団長	やま 山 梨 幸 夫 (69)	瑞 単	三 重 県	元 鈴鹿市消防団 分団長	やま 杉 本 米 夫 (73)
瑞 単	静 岡 県	元 沼津市消防団 分団長	やま 山 本 清 (64)	瑞 単	三 重 県	元 尾鷲市消防団 団長	の 野 田 知 男 (66)
瑞 小	愛 知 県	元 名古屋市 消防正監	い 稲 垣 博 (74)	瑞 単	三 重 県	元 飯南町消防団 団長	は 馬 場 優 (64)
瑞 単	愛 知 県	元 豊明市消防団 団長	い 稲 垣 信 彦 (61)	瑞 単	三 重 県	元 四日市市消防団 分団長	みづ 水 谷 延 幸 (72)
瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市五反田消防 団長	い 大 飼 守 (74)	瑞 単	三 重 県	元 大王町消防団 副団長	みや 宮 田 松 成 (64)
瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市鶴舞消防 団長	か 加 藤 清 徳 (70)	瑞 単	滋 賀 県	元 高島市消防団 団長	い 井 川 正 一 (66)
瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市大須消防 団長	かわ 川 本 二 郎 (87)	瑞 単	滋 賀 県	元 栗東市消防団 団長	きた 北 川 三 好 (66)
瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市新明消防 団長	あが 鈴 木 健 藏 (69)	瑞 単	滋 賀 県	元 草津市消防団 団長	こ 小 寺 正 直 (68)
瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市二城消防 団長	たか 高 木 良 治 (76)	瑞 単	滋 賀 県	元 大津市消防団 副団長	たか 村 田 敏 治 (66)
瑞 単	愛 知 県	元 名古屋市上名古屋 消防団 団長	なが 永 田 喜 貞 (84)	瑞 小	京 都 府	元 京都市 消防正監	もり 森 方 功 (70)
瑞 単	愛 知 県	元 あま市甚目寺消防 副団長	やま 山 田 繁 勝 (63)	瑞 単	京 都 府	元 舞鶴市西大浦消防 団長	あさ 浅 尾 惣 治 (77)
瑞 単	三 重 県	元 津市消防団 副団長	おお 太 田 すす 進 (77)	瑞 単	京 都 府	元 京都市左京消防団 分団長	こ 小 籠 忠 雄 (87)



賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	京 都 府	元 南丹市消防団 分団長	近 藤 良 一 (67)	瑞 単	大 阪 府	元 茨木市消防団 副団長	乾 勲 (74)
瑞 単	京 都 府	元 舞鶴市与保呂消防 団 団長	常 塚 隆 秀 (74)	瑞 単	大 阪 府	元 泉佐野市消防団 副団長	奥 登志男 (69)
瑞 単	京 都 府	元 京都市右京消防団 団長	内 藤 紀 彦 (69)	瑞 単	大 阪 府	元 貝塚市消防団 分団長	菊 政太郎 (73)
瑞 単	京 都 府	元 京都市左京消防団 分団長	橋 中 日出夫 (78)	瑞 単	大 阪 府	元 和泉市消防団 副団長	小 出 政 一 (71)
瑞 単	京 都 府	元 宇治市消防団 分団長	深 井 英 一 (68)	瑞 単	大 阪 府	元 富田林市消防団 分団長	芝 本 健 (73)
瑞 単	京 都 府	元 舞鶴市余内消防団 団長	山 内 哲 夫 (73)	瑞 単	大 阪 府	元 豊中市消防団 分団長	土 肥 安 弘 (79)
瑞 単	京 都 府	元 舞鶴市岡田中消防 団 団長	山 崎 富 雄 (76)	瑞 小	兵 庫 県	元 神戸市 消防正監	飯 田 正 巳 (70)
瑞 単	京 都 府	元 京都市伏見消防団 分団長	山 本 一 夫 (74)	瑞 小	兵 庫 県	元 神戸市 消防正監	米 谷 友 宏 (70)
瑞 小	大 阪 府	元 東大阪市 消防正監	武 田 勝 行 (70)	瑞 双	兵 庫 県	元 佐用町消防団 団長	高 木 照 雄 (74)
瑞 双	大 阪 府	元 堺市美原消防団 団長	氏 林 弘 (80)	瑞 単	兵 庫 県	元 相生市消防団 分団長	出 田 年 成 (64)
瑞 双	大 阪 府	元 大阪市 消防正監	堀 井 忠 次 (70)	瑞 単	兵 庫 県	元 神戸市東灘消防団 団長	伊 藤 繁 夫 (68)
瑞 単	大 阪 府	元 交野市消防団 副団長	乾 昭 幸 (69)	瑞 単	兵 庫 県	元 豊岡市城崎消防団 副団長	井 上 俊 宏 (64)

瑞 単	兵 庫 県	元 赤穂市消防団 副団長	今 井 武 (64)	瑞 単	兵 庫 県	元 加古川市消防団 副分団長	殊 賀 隆 二 (70)
瑞 単	兵 庫 県	元 新温泉町消防団 副団長	岩 田 富 雄 (66)	瑞 単	兵 庫 県	元 太子町消防団 副団長	三 木 延 昭 (64)
瑞 単	兵 庫 県	元 姫路市姫路東消防 団 分団長	岩 濱 清 (80)	瑞 単	兵 庫 県	元 豊岡市出石消防団 副団長	山 口 進 (64)
瑞 単	兵 庫 県	元 淡路市消防団 副団長	大 石 光 司 (64)	瑞 単	兵 庫 県	元 川西市消防団 分団長	吉 井 明 (77)
瑞 単	兵 庫 県	元 加古川市消防団 分団長	岡 崎 清 一 (65)	瑞 単	奈 良 県	元 天川村消防団 副団長	上 西 文 一 (76)
瑞 単	兵 庫 県	元 養父市消防団 副団長	勝 地 薫 (65)	瑞 単	奈 良 県	元 奈良市消防団 分団長	北 野 平八郎 (75)
瑞 単	兵 庫 県	元 家島町消防団 団長	桂 長四郎 (67)	瑞 単	奈 良 県	元 大和高田市消防団 団長	高 木 康 廣 (67)
瑞 単	兵 庫 県	元 姫路市姫路西消防 団 分団長	神 吉 幸 彦 (72)	瑞 単	奈 良 県	元 五條市消防団 分団長	竹 田 久 (80)
瑞 単	兵 庫 県	元 佐用町消防団 副団長	小 林 忠 芳 (67)	瑞 単	奈 良 県	元 御所市消防団 副団長	早 本 俊 裕 (69)
瑞 単	兵 庫 県	元 相生市消防団 副団長	坂 野 重 好 (67)	瑞 単	奈 良 県	元 橿原市消防団 団長	山 崎 慎 三 (66)
瑞 単	兵 庫 県	元 尼崎市消防団 分団長	杉 山 博 明 (70)	瑞 単	和 歌 山 県	元 みなべ町消防団 団長	荒 堀 和 雄 (66)
瑞 単	兵 庫 県	元 三田市消防団 団長	畑 勇 (74)	瑞 単	和 歌 山 県	元 九度山町消防団 副分団長	大 谷 善 亮 (81)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	和 歌 山 県	元 和歌山市消防団 副団長	沖 守 (72)	瑞 単	島 根 県	元 大田市消防団 分団長	井 谷 英 美 (73)
瑞 単	和 歌 山 県	元 和歌山市消防団 副団長	小 池 謙 治 (71)	瑞 単	島 根 県	元 隠岐の島町消防団 副団長	高 宮 達 明 (80)
瑞 単	和 歌 山 県	元 野上町消防団 分団長	下垣内 修 司 (74)	瑞 単	島 根 県	元 仁多町消防団 副団長	田 部 忠 昭 (65)
瑞 単	和 歌 山 県	元 海南市消防団 副団長	服 部 眞 治 (67)	瑞 単	島 根 県	元 益田市消防団 分団長	田 迫 利 男 (83)
瑞 単	和 歌 山 県	元 串本町消防団 副団長	濱 口 舟 二 (75)	瑞 単	島 根 県	元 浜田市消防団 副団長	野 田 政 利 (71)
瑞 単	和 歌 山 県	元 橋本市消防団 分団長	古 川 弘 (80)	瑞 単	島 根 県	元 斐川町消防団 団長	三 島 昇 (68)
瑞 単	和 歌 山 県	元 那智勝浦町消防団 分団長	古 田 益 規 (74)	瑞 単	島 根 県	元 安来市消防団 分団長	森 藤 幹 夫 (67)
瑞 単	和 歌 山 県	元 白浜町消防団 副団長	横 畑 芳 光 (71)	瑞 双	岡 山 県	元 津山圏域消防組合 消防正監	大 田 基 (70)
瑞 双	鳥 取 県	元 日野町消防団 団長	宮 脇 光 男 (70)	瑞 双	岡 山 県	元 赤磐市消防団 団長	小 西 憲 勝 (70)
瑞 単	鳥 取 県	元 倉吉市消防団 団長	尾 崎 和 行 (66)	瑞 単	岡 山 県	元 瀬戸内市消防団 副団長	家 野 義 雄 (65)
瑞 単	鳥 取 県	元 八頭町消防団 副団長	中 村 信 行 (65)	瑞 単	岡 山 県	元 瀬戸町消防団 団長	金 光 良 一 (66)
瑞 単	鳥 取 県	元 北条町消防団 団長	松 本 雅 美 (65)	瑞 単	岡 山 県	元 玉野市消防団 副団長	川 邊 雅 太 (65)

瑞 単	岡 山 県	元 御津町消防団 団長	黒 田 薫 (65)	瑞 単	広 島 県	元 三次市消防団 副団長	荒 木 勝 次 (73)
瑞 単	岡 山 県	元 岡山市消防団 分団長	齋 藤 照 夫 (68)	瑞 単	広 島 県	元 広島市佐伯消防団 分団長	植 西 昭 三郎 (77)
瑞 単	岡 山 県	元 瀬戸内市消防団 分団長	島 村 雅 雄 (66)	瑞 単	広 島 県	元 安芸高田市消防団 副団長	上 本 昭 二 (70)
瑞 単	岡 山 県	元 久世町消防団 副団長	竹 林 眞 行 (69)	瑞 単	広 島 県	元 東広島市消防団 副分団長	上 森 義 信 (84)
瑞 単	岡 山 県	元 新見市消防団 分団長	谷川内 茂 (66)	瑞 単	広 島 県	元 安芸太田町消防団 部長	岡 田 秋 人 (82)
瑞 単	岡 山 県	元 富村消防団 団長	玉 田 誠 一 (66)	瑞 単	広 島 県	元 三次市消防団 分団長	沖 野 五 郎 (80)
瑞 単	岡 山 県	元 真庭市中和消防団 団長	津 村 幸 男 (66)	瑞 単	広 島 県	元 広島市西消防団 団長	澤 井 昌 一 (70)
瑞 単	岡 山 県	元 真庭市消防団 副団長	飛 峪 信 介 (65)	瑞 単	広 島 県	元 三次市消防団 分団長	棚 多 武 司 (70)
瑞 単	岡 山 県	元 美作市消防団 副団長	中 谷 昭 (65)	瑞 単	広 島 県	元 安芸津町消防団 分団長	谷 保 正 則 (80)
瑞 単	岡 山 県	元 柵原町消防団 団長	松 島 寛 明 (65)	瑞 単	広 島 県	元 三原市消防団 分団長	羽 田 薫 (82)
瑞 単	岡 山 県	元 真備町消防団 団長	山 辺 秀 昭 (65)	瑞 単	広 島 県	元 呉市消防団 分団長	福 間 義 昭 (87)
瑞 双	広 島 県	元 庄原市消防団 団長	山 口 忠 男 (70)	瑞 単	広 島 県	元 呉市消防団 副分団長	伏 田 孝 三 (87)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	広 島 県	元 三原市消防団 分団長	みち 道 原 輝 (80)	瑞 単	山 口 県	元 山陽小野田市消防団 分団長	なほ 縄 田 建 夫 (73)
瑞 単	広 島 県	元 安浦町消防団 分団長	もり 森 本 泰 三 (85)	瑞 単	山 口 県	元 周南市消防団 団長	はし 橋 本 賢 治 (67)
瑞 単	広 島 県	元 江田島市消防団 副団長	やま 山 本 悦 男 (70)	瑞 単	山 口 県	元 萩市消防団 団長	はやし 林 安 繁 (76)
瑞 単	広 島 県	元 広島市安佐南消防団 分団長	よこ 横 本 春 雄 (83)	瑞 単	山 口 県	元 東和町消防団 分団長	ひら 平 原 俊 久 (75)
瑞 双	山 口 県	元 下関市消防団豊田消防団 団長	いそ 糸 賀 博 (66)	瑞 単	山 口 県	元 岩国市消防団 副団長	ひろ 廣 瀬 博 文 (71)
瑞 単	山 口 県	元 周防大島町消防団 副団長	おか 岡 山 興 市 (76)	瑞 単	山 口 県	元 秋芳町消防団 分団長	よし 藤 の 野 ひろし 禮 (70)
瑞 単	山 口 県	元 萩市消防団 分団長	かり 狩 又 の 昇 (75)	瑞 単	山 口 県	元 徳地町消防団 分団長	み 三 浦 偉 史 (81)
瑞 単	山 口 県	元 萩市消防団 分団長	さい 齋 藤 五 三 (75)	瑞 単	山 口 県	元 平生町消防団 分団長	やま 山 本 達 雄 (75)
瑞 単	山 口 県	元 山陽小野田市消防団 分団長	しの 篠 田 清 臣 (74)	瑞 単	徳 島 県	元 小松島市消防団 団長	あら 荒 木 敏 雄 (66)
瑞 単	山 口 県	元 美川町消防団 団長	しょう 庄 司 範 康 (70)	瑞 単	徳 島 県	元 阿南市消防団 分団長	たに 谷 知 己 (65)
瑞 単	山 口 県	元 美祢市消防団 分団長	しろ 白 井 正 正 (71)	瑞 単	徳 島 県	元 徳島県海陽町消防団 副団長	の 野 さか 崎 しん 眞之助 (76)
瑞 単	山 口 県	元 平生町消防団 分団長	とみ 富 田 靖 生 (75)	瑞 単	徳 島 県	元 阿南市消防団 副団長	やま 山 本 隆 司 (65)

瑞 単	徳 島 県	元 阿南市消防団 副団長	やま 山 本 英 雄 (65)	瑞 単	香 川 県	元 琴平町消防団 分団長	みち 道 久 學 (84)
瑞 単	徳 島 県	元 徳島市消防団 分団長	よし 吉 川 俊 人 (64)	瑞 単	香 川 県	元 綾南町消防団 副団長	やま 山 下 徹 (74)
瑞 単	香 川 県	元 高松市消防団 副団長	かほ 鎌 田 浩 幸 (68)	瑞 双	愛 媛 県	元 伊予市消防団 団長	おほ 大 塚 邦 明 (65)
瑞 単	香 川 県	元 仁尾町消防団 副団長	きの 木 下 孝 (75)	瑞 双	愛 媛 県	元 新居浜市消防団 団長	たに 片 上 壽 久 (72)
瑞 単	香 川 県	元 宇多津町消防団 分団長	しお 塩 田 等 (81)	瑞 単	愛 媛 県	元 今治市消防団 副団長	あ 阿 部 利 通 (65)
瑞 単	香 川 県	元 高松市消防団 副団長	そ 十 河 安 雄 (69)	瑞 単	愛 媛 県	元 今治市消防団 分団長	あ 越 智 正 忠 (67)
瑞 単	香 川 県	元 観音寺市消防団 副団長	たか 高 嶋 重 忠 (73)	瑞 単	愛 媛 県	元 西条市消防団 団長	き 木 藤 崎 清 (67)
瑞 単	香 川 県	元 高瀬町消防団 分団長	たか 高 田 康 則 (76)	瑞 単	愛 媛 県	元 内子町消防団 団長	く 久 保 文 男 (68)
瑞 単	香 川 県	元 志度町消防団 分団長	かに 谷 弘 行 (79)	瑞 単	愛 媛 県	元 面河村消防団 分団長	も 曾 亀 岸 秋 (82)
瑞 単	香 川 県	元 三木町消防団 副団長	とみ 富 田 博 (76)	瑞 単	愛 媛 県	元 四国中央市土居消防団 団長	ひがし 東 の 野 かず 一 雄 (69)
瑞 単	香 川 県	元 まんのう町消防団 副団長	はし 橋 塚 弘 (69)	瑞 単	愛 媛 県	元 四国中央市消防団 副団長	ほ 細 川 ひろし 博 (70)
瑞 単	香 川 県	元 長尾町消防団 副団長	はせ 蓮 井 正 典 (74)	瑞 単	愛 媛 県	元 松山市消防団 分団長	まつ 松 本 太 茂 一 (78)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	愛 媛 県	元 四国中央市消防団 分団長	もり 森 實 友 親 (82)	瑞 単	福 岡 県	元 柳川市消防団 分団長	あつさか 阿津坂 益 男 (65)
瑞 単	高 知 県	元 越知町消防団 分団長	いの 井 上 義 久 (70)	瑞 単	福 岡 県	元 太宰府市消防団 分団長	うちやま 内山田 武 利 (69)
瑞 単	高 知 県	元 仁淀村消防団 副団長	おお 大 石 武 志 (74)	瑞 単	福 岡 県	元 川崎町消防団 分団長	おきもと 生座本 貞 吉 (76)
瑞 単	高 知 県	元 南国市消防団 副団長	しま 島 崎 紀 夫 (68)	瑞 単	福 岡 県	元 大牟田市消防団 副団長	かん 神 崎 力 一 (68)
瑞 単	高 知 県	元 中村市消防団 分団長	しも 下 岡 熊 彦 (82)	瑞 単	福 岡 県	元 行橋市消防団 分団長	きた 北 田 庄 司 (79)
瑞 単	高 知 県	元 芸西村消防団 副団長	せん 仙 頭 薫 (66)	瑞 単	福 岡 県	元 福岡市早良消防団 分団長	くさ 草 場 亨 (68)
瑞 単	高 知 県	元 日高村消防団 分団長	なか 中 村 正 信 (70)	瑞 単	福 岡 県	元 糸田町消防団 副団長	しず 静 間 勲 (76)
瑞 単	高 知 県	元 香南市野市消防団 副団長	ふく 福 田 進 一 (68)	瑞 単	福 岡 県	元 北九州市戸畑消防団 分団長	たけ 竹 内 溢 美 (76)
瑞 単	高 知 県	元 高知市消防団 分団長	ほり 堀 内 領 (81)	瑞 単	福 岡 県	元 赤村消防団 分団長	た 田 代 昭 男 (73)
瑞 単	高 知 県	元 いの町消防団 副団長	わ 和 田 正 男 (68)	瑞 単	福 岡 県	元 豊前市消防団 副団長	た 田 邊 洋 祐 (73)
瑞 双	福 岡 県	元 宮若市消防団 団長	うえ 植 木 好 和 (86)	瑞 単	福 岡 県	元 大木町消防団 団長	つる 鶴 岡 友 男 (64)
瑞 双	福 岡 県	元 桂川町消防団 団長	か 加 来 政 勝 (72)	瑞 単	福 岡 県	元 築城町消防団 分団長	なか 中 江 正 (79)

瑞 単	福 岡 県	元 小竹町消防団 分団長	なか 中 川 之 信 (68)	瑞 単	佐 賀 県	元 神埼町消防団 分団長	もり 森 田 忠 明 (71)
瑞 単	福 岡 県	元 豊前市消防団 分団長	なか 中 田 孝 梯 (79)	瑞 単	佐 賀 県	元 山内町消防団 副団長	やま 山 口 貞 廣 (69)
瑞 単	福 岡 県	元 直方市消防団 分団長	はやし 林 信 一 (67)	瑞 小	長 崎 県	元 県央地域広域市町村圏組合 消防正監	あいら 甲斐下 幸 徳 (70)
瑞 単	福 岡 県	元 北九州市八幡西消防団 分団長	ふく 福 澤 邦 彦 (74)	瑞 小	長 崎 県	元 長崎市 消防正監	あか 紅 露 孝 也 (70)
瑞 単	福 岡 県	元 北九州市小倉南消防団 分団長	まつ 松 下 輝 義 (79)	瑞 単	長 崎 県	元 長崎市消防団 副分団長	いわ 岩 崎 幸 義 (81)
瑞 単	福 岡 県	元 添田町消防団 分団長	やま 山 下 政 一 (72)	瑞 単	長 崎 県	元 長崎市消防団 副分団長	おお 大 塚 等 (86)
瑞 単	福 岡 県	元 福岡市西消防団 副団長	よし 吉 岡 勝 人 (70)	瑞 単	長 崎 県	元 長崎市消防団 副分団長	お 小 野 英 夫 (83)
瑞 単	佐 賀 県	元 太良町消防団 副団長	え 恵 崎 良 司 (66)	瑞 単	長 崎 県	元 鷹島村消防団 副分団長	かね 金井田 吉 喜 (85)
瑞 単	佐 賀 県	元 鳥栖市消防団 分団長	ごん 権 藤 康 宏 (68)	瑞 単	長 崎 県	元 生月町消防団 副団長	かね 金 子 光 弘 (70)
瑞 単	佐 賀 県	元 伊万里市消防団 分団長	たに 谷 口 則 久 (67)	瑞 単	長 崎 県	元 奈留町消防団 分団長	すず 鈴 木 信 吉 (75)
瑞 単	佐 賀 県	元 唐津市消防団 副団長	なか 中 島 隆 夫 (64)	瑞 単	長 崎 県	元 対馬市消防団 分団長	たか 高 司 恭 光 (75)
瑞 単	佐 賀 県	元 吉野ヶ里町消防団 分団長	まる 丸 野 勲 (66)	瑞 単	長 崎 県	元 佐世保市消防団 分団長	なん 南 部 博 文 (75)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
瑞 単	長 崎 県	元 西海市消防団 副分団長	原 田 榮 次 (74)	瑞 単	熊 本 県	元 天草市消防団 副団長	佐々木 倫 一 (64)
瑞 単	長 崎 県	元 佐世保市消防団 分団長	前 田 義 廣 (78)	瑞 単	熊 本 県	元 高森町消防団 副団長	瀬 井 正 三 (64)
瑞 単	長 崎 県	元 有川町消防団 分団長	舩 田 末 浩 (73)	瑞 単	熊 本 県	元 天草市消防団 副団長	中 野 栄 造 (64)
瑞 単	長 崎 県	元 長崎市消防団 分団長	松 尾 満 雄 (80)	瑞 単	熊 本 県	元 天草市消防団 団長	松 下 智 洋 (64)
瑞 単	長 崎 県	元 佐世保市消防団 分団長	峰 照 光 (78)	瑞 単	熊 本 県	元 相良村消防団 団長	吉 松 利 則 (64)
瑞 単	長 崎 県	元 壱岐市消防団 副団長	山 口 久 美 (69)	瑞 単	熊 本 県	元 植木町消防団 団長	吉 村 誠 也 (69)
瑞 小	熊 本 県	元 熊本市 消防正監	小 田 和 穂 (70)	瑞 単	大 分 県	元 湯布院町消防団 副団長	今 吉 勝 義 (75)
瑞 双	熊 本 県	元 熊本市消防団 団長	米 村 昌 昭 (70)	瑞 単	大 分 県	元 中津市消防団 副団長	梶 田 一 弘 (68)
瑞 単	熊 本 県	元 山鹿市消防団 分団長	阿蘇品 宗 旭 (71)	瑞 単	大 分 県	元 佐伯市本匠消防団 団長	川 野 源 治 (67)
瑞 単	熊 本 県	元 水俣市消防団 副団長	植 田 俊 秀 (70)	瑞 単	大 分 県	元 臼杵市連合消防団 臼杵消防団 分団長	高 橋 長 利 (68)
瑞 単	熊 本 県	元 植木町消防団 団長	有 働 孝 雄 (69)	瑞 単	大 分 県	元 別府市消防団 分団長	西 本 義 矩 (77)
瑞 単	熊 本 県	元 八代市消防団 分団長	坂 口 正 道 (67)	瑞 単	大 分 県	元 日田市消防団天瀬 支団 団長	林 保 博 (64)

瑞 単	大 分 県	元 大分市消防団 副団長	姫 野 正一郎 (69)	瑞 単	鹿 児 島 県	元 鹿屋市消防団 副団長	浅 井 健 一 (72)
瑞 単	大 分 県	元 杵築市消防団 副団長	堀 部 健太郎 (66)	瑞 単	鹿 児 島 県	元 大根古町消防団 分団長	川 邊 鐵 也 (80)
瑞 単	大 分 県	元 朝地町消防団 団長	森 忍 一 (72)	瑞 単	鹿 児 島 県	元 喜界町消防団 分団長	生 植 穢 (85)
瑞 単	大 分 県	元 宇佐市消防団 副団長	山 田 政 美 (71)	瑞 単	鹿 児 島 県	元 薩摩川内市消防団 副団長	関 一 幸 (68)
瑞 双	宮 崎 県	元 宮崎市高岡消防団 団長	吉 田 光 男 (70)	瑞 単	鹿 児 島 県	元 霧島市消防団 分団長	瀬 戸 薫 (74)
瑞 単	宮 崎 県	元 日南市消防団 副団長	倉 崎 六 夫 (65)	瑞 単	鹿 児 島 県	元 鹿児島市消防団 副分団長	竹 下 吉 夫 (82)
瑞 単	宮 崎 県	元 都城市山田消防団 分団長	重 満 久 雄 (65)	瑞 単	鹿 児 島 県	元 枕崎市消防団 副分団長	瀧 田 徹 一 (79)
瑞 単	宮 崎 県	元 都城市消防団 分団長	松 田 恵 三 (73)	瑞 単	鹿 児 島 県	元 鹿児島市消防団 分団長	平 田 利 光 (77)
瑞 単	宮 崎 県	元 日南市消防団 分団長	山 口 光 彦 (64)	瑞 単	鹿 児 島 県	元 伊佐市消防団 副団長	外 山 政 輝 (73)
瑞 双	鹿 児 島 県	元 指宿市消防団 団長	久 保 公 孝 (68)	瑞 単	沖 縄 県	元 那覇市消防団 分団長	宮 里 繁 (67)
瑞 双	鹿 児 島 県	元 瀬戸内町消防団 団長	福 井 友一朗 (65)				
瑞 双	鹿 児 島 県	元 肝付町消防団 団長	吉 永 良 行 (70)				

# 平成27年秋の褒章受章者名簿(消防関係)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
藍 綬	北 海 道	現 斜里地区消防組合 小清水消防団 副団長	小 野 博 幸 (64)	藍 綬	栃 木 県	元 佐野市消防団 副団長	五十部 正 (61)
藍 綬	北 海 道	現 滝川地区広域消防 事務組合滝川消防 分団長	西 村 洋 一 (66)	藍 綬	栃 木 県	現 下野市消防団 副団長	岡 本 忠 士 (55)
藍 綬	青 森 県	現 三戸町消防団 分団長	工 藤 勝 昭 (60)	藍 綬	栃 木 県	現 那須町消防団 団長	五 関 道 男 (56)
藍 綬	青 森 県	現 大間町消防団 副団長	宮 野 成 厚 (59)	藍 綬	群 馬 県	現 高崎市消防団 副団長	須 藤 欣 司 (55)
藍 綬	秋 田 県	現 大瀧村消防団 団長	池 田 彰 (60)	藍 綬	群 馬 県	現 太田市消防団 副団長	堀 本 知 昭 (55)
藍 綬	山 形 県	現 南陽市消防団 団長	高 橋 義 昭 (59)	藍 綬	埼 玉 県	現 小鹿野町消防団 団長	大 塚 徹 (54)
藍 綬	山 形 県	現 鶴岡市消防団 副団長	照 井 和 (54)	藍 綬	千 葉 県	現 銚子市消防団 団長	芝 岸 弘 弘 (63)
藍 綬	福 島 県	現 磐梯町消防団 副団長	足 利 眞 一 (61)	藍 綬	千 葉 県	現 柏市消防団 副団長	鈴 木 哲 (54)
藍 綬	福 島 県	現 富岡町消防団 団長	安 藤 治 (66)	藍 綬	千 葉 県	現 千葉市消防団 団長	原 久 男 (65)
藍 綬	福 島 県	現 棚倉町消防団 団長	原 孝 一 (58)	紅 綬	東 京 都	人命救助者	中 村 輝 (22)
藍 綬	茨 城 県	現 常陸大宮市消防団 団長	岡 山 勝 彦 (64)	紅 綬	東 京 都	人命救助者	山 田 安 志 (21)
藍 綬	栃 木 県	現 小山市消防団 副団長	飯 島 定 男 (60)	藍 綬	東 京 都	現 城東消防団 副団長	安 食 浩 一郎 (61)

藍 綬	東 京 都	現 麴町消防団 副団長	小 柴 徹 (65)	藍 綬	神 奈 川 県	現 横浜市泉消防団 副団長	石 井 正 志 (64)
藍 綬	東 京 都	現 京橋消防団 副団長	小 林 十三男 (70)	藍 綬	神 奈 川 県	現 横浜市伊勢佐木消防 団副団長	江 野 路 郎 (68)
藍 綬	東 京 都	現 豊島消防団 副団長	斉 藤 普 一 (72)	藍 綬	神 奈 川 県	現 横須賀市消防団 分団長	太 田 秀 秀 (72)
藍 綬	東 京 都	現 小岩消防団 副団長	佐 藤 誠 (60)	藍 綬	神 奈 川 県	現 川崎市幸消防団 分団長	蒲 田 賢 (57)
藍 綬	東 京 都	現 福生市消防団 団長	瀬 古 毅 (55)	藍 綬	神 奈 川 県	現 横浜市磯子消防団 副団長	川 村 清 治 (68)
藍 綬	東 京 都	現 野方消防団 副団長	高 山 庄 二 (70)	藍 綬	石 川 県	現 野々市市消防団 団長	清 水 一 男 (61)
藍 綬	東 京 都	現 上野消防団 副団長	竹 田 和 生 (66)	藍 綬	石 川 県	現 輪島市消防団 分団長	山 田 政 雄 (79)
藍 綬	東 京 都	現 日本橋消防団 分団長	武 田 武 (77)	藍 綬	福 井 県	現 南越消防組合越前 市消防団副団長	山 崎 英 己 (61)
藍 綬	東 京 都	現 浅草消防団 副団長	三田村 信 吉 (66)	藍 綬	山 梨 県	現 甲府市消防団 副団長	戸 澤 光 男 (65)
藍 綬	東 京 都	現 臨港消防団 副団長	村 山 茂 也 (63)	藍 綬	岐 阜 県	現 瑞浪市消防団 団長	大 島 忠 和 (65)
藍 綬	東 京 都	現 小金井市消防団 団長	渡 邊 正 明 (60)	藍 綬	岐 阜 県	現 揖斐川町消防団 副団長	國 枝 宏 行 (59)
藍 綬	東 京 都	現 小石川消防団 副団長	渡 邊 由紀雄 (61)	藍 綬	岐 阜 県	現 高山市消防団 副団長	桜 本 昌 彦 (67)

賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)	賞 賜	都道府県名	主 要 経 歴	氏 名 (年齢)
藍 綬	岐 阜 県	現 瑞穂市消防団 副団長	堤 春 雄 (62)	藍 綬	滋 賀 県	現 草津市消防団 副団長	中 村 幸 範 (54)
藍 綬	岐 阜 県	現 池田町消防団 団長	森 明 (64)	藍 綬	京 都 府	現 井手町消防団 分団長	大 田 慎 也 (47)
藍 綬	岐 阜 県	現 白川町消防団 団長	安 江 兵 吾 (53)	藍 綬	大 阪 府	現 枚方市消防団 副団長	柏 村 和 彦 (63)
藍 綬	静 岡 県	現 浜松市消防団 分団長	大 澄 和 也 (55)	藍 綬	大 阪 府	現 池田市消防団 副団長	片 山 照 喜 (64)
藍 綬	愛 知 県	現 愛西市消防団 団長	石 河 靖 雄 (57)	藍 綬	大 阪 府	現 吹田市消防団 副団長	田 中 茂 男 (68)
藍 綬	愛 知 県	現 名古屋市昭和橋消防 団長	小笠原 勝 美 (70)	藍 綬	大 阪 府	現 箕面市消防団 副団長	林 利 昭 (57)
藍 綬	愛 知 県	現 名古屋市笠寺消防 団長	熊 澤 静 雄 (71)	藍 綬	大 阪 府	現 河南町消防団 分団長	藤 井 喜 隆 (70)
藍 綬	愛 知 県	現 清須市消防団 団長	齋 藤 雅 美 (64)	藍 綬	大 阪 府	現 豊中市消防団 副団長	本 田 政 和 (56)
藍 綬	三 重 県	現 鈴鹿市消防団 分団長	加 藤 道 博 (73)	藍 綬	鳥 取 県	現 米子市消防団 副団長	吹 野 悦 郎 (64)
藍 綬	三 重 県	現 津市消防団 副団長	木 下 榮 雄 (67)	藍 綬	鳥 取 県	現 米子市消防団 分団長	池 本 嘉 明 (73)
藍 綬	三 重 県	現 四日市市消防団 部長	羽 藤 恵 一 (71)	藍 綬	岡 山 県	現 瀬戸内市消防団 副団長	馬 場 政 教 (59)
藍 綬	滋 賀 県	現 大津市消防団 副団長	今 井 俊 博 (60)	藍 綬	福 岡 県	現 北九州市若松消防 分団長	荒 牧 繁 (63)

藍 綬	福 岡 県	現 遠賀町消防団 副団長	太 田 歳 彦 (59)	藍 綬	鹿 児 島 県	現 薩摩川内市消防団 副団長	折 田 政 行 (63)
藍 綬	福 岡 県	現 宮若市消防団 副団長	梶 原 貞 人 (63)	藍 綬	鹿 児 島 県	元 下甌村消防団 団長	中 川 三 継 (66)
藍 綬	福 岡 県	現 飯塚市消防団 分団長	武 末 秀 生 (64)	黄 綬	北 海 道	現 消防防コンサルタント 代表取締役	馬 場 明 美 (74)
藍 綬	福 岡 県	現 小竹町消防団 副団長	豊 崎 能 利 雄 (65)	黄 綬	宮 城 県	現 櫻井防災 代表取締役	櫻 井 勝 雄 (70)
藍 綬	熊 本 県	現 熊本市消防団 副団長	能 田 伸 一 郎 (74)	藍 綬	福 島 県	現 福島県女性防火ク ラブ連絡協議会 会長	渡 部 光 子 (80)
藍 綬	熊 本 県	現 熊本市消防団 副団長	米 村 邦 男 (68)	黄 綬	千 葉 県	現 消防科学研究所 代表取締役社長	菊 池 信 (63)
藍 綬	大 分 県	現 由布市消防団 分団長	甲 斐 敦 夫 (58)	黄 綬	東 京 都	現 能美防災 代表取締役会長	橋 爪 毅 (72)
藍 綬	大 分 県	現 由布市消防団 分団長	工 藤 和 美 (61)	藍 綬	香 川 県	現 香川県婦人・女性 防火クラブ連絡協 議会 会長	田 所 雪 子 (79)
藍 綬	宮 崎 県	現 延岡市消防団 副団長	荒 木 清 (62)	黄 綬	愛 媛 県	現 四国消防 代表取締役社長	田 口 直 行 (65)
藍 綬	宮 崎 県	元 都城市山田消防団 団長	牛 谷 稔 (63)	黄 綬	熊 本 県	現 立尾電設 代表取締役	永 田 光 男 (70)
藍 綬	宮 崎 県	現 延岡市消防団 副団長	甲 斐 博 之 (60)				
藍 綬	宮 崎 県	現 都農町消防団 団長	黒 木 正 之 (57)				



# 「毎年が 防災元年 皆で協力 防災活動！」



草津市消防団 団長 杉江 肇

## 1 草津市の紹介

草津市は滋賀県の南東部に位置し、南北約13.2km・東西10.9kmとやや南北に広がった地域からなり総面積は67.82km<sup>2</sup>、人口約13万人、国土主要幹線のJR東海道本線（琵琶湖線）、新幹線、名神高速道路、国道1号線などが市域を通り、県下で中心的な役割を果たす都市となっています。また本市は、大規模な工場が多数立地する工業都市であること。さらには京阪神圏のベッドタウンとして、依然人口の増加が続いています。

ちなみに、安心度や快適度、利便性などを指標とします「住みよさランキング」によると、近畿エリアでは本市が3年連続でトップとなっております。

## 2 草津市消防団の活動紹介

現在、団本部と女性分団（KFFL分団）を含む9分団の体制により活動。また、市内に在勤、在住している約2,000人の外国人への災害対応として、全国で初となる外国人で構成された機能別消防団員を含め、条例定数と同数の233名で構成しています。

消防車両等は、指令車等4台、ポンプ自動車8台、小型動力ポンプ付積載車8台を有しております。

当消防団は、「草津市消防団活動基準」を平成20年4月1日に制定し、KFFL分団を除く8分団を二分し、方面体制をとることにより、複雑多様化する災害に迅速に対応出来る消防団を目指し、災害防ぎよに対応する

ための訓練や、階級別の研修（主催：滋賀県消防協会 湖南広域支部）を主とした活動を行っています。また、軽可搬ポンプ等による消火訓練についても積極的に取り組んでいる一方、普通救命講習の受講はもちろんのこと、市民への救急指導員としての養成も行っていきます。



草津市消防団消防操法選考会

## 3 第60回滋賀県消防大会の開催

今年度の滋賀県消防大会は、10月3日、草津市内の立命館大学びわこ・くさつキャンパスにおいて、当市で開催するにあたり、第60回目となる節目の年を祝し、日本消防協会の秋本敏文会長様に御臨席いただくことができました。

式典では職・団員の表彰の他、大学サークルのアトラクション、また地元自治会及び保育園児から「防火みこし」での参加を願い、屋外での車両パレードを



第60回滋賀県消防大会



行いました。さらに、本大会の開催と併せて「総務省消防庁モデル事業」を実施し、県内で女性消防団員が採用されていない消防団への加入促進広報を女性消防団員や大学生の協力を得て実施しました。



募集ポスター



配布チラシ

#### 4 市内に住む外国人への対応

本市には約2,000人の外国人が居住しており、災害時には日本語での会話が困難な外国人は言葉がわからず、生活習慣や文化も違うことからより不安な状況におかれることになります。市内には立命館大学が立地し、多くの留学生や外国人講師が在住しており、その中には母国語、英語そして日本語が堪能な方々がおられます。そういった方を中心に機能別消防団員として任命しました。一般的に災害援助者であると考えられている外国人自らが機能別消防団員として活躍していくことで、「助けを求める側」から「助ける側」へのシフトチェンジによる防災減災対策を進めていきます。



機能別団員任命式

#### 5 女性消防団員の活動

KFFL女性分団は、“明るく楽しく仲良く”をモットーに、出来る人が出来る事をしていこうと前向きに考え活動しています。

KFFL分団では、災害予防活動として、保育園、幼稚園及び一人暮らしの老人宅への防火訪問を計画的に実施し、防災教育、住宅用火災警報器や安全装置付きのガスコンロの購入など、防災機器の普及活動を実施しています。また、定期的に軽可搬ポンプ操法訓練を実施し、さらに毎年定期的に行われる（公財）滋賀県消防協会が主催する淡海ファイアーレディーズ交流会や全国女性消防団員活性化大会にも積極的に参加しながら、より効果のある防火・防災活動を目指して頑張っています。



KFFL分団員訓練

#### 6 住宅用火災警報器の設置及び交換支援

草津市消防団では、ここ数年、毎年のように住宅火災による高齢の死傷者が発生していることから、草津市災害時要援護者登録制度に登録されている高齢者（世帯）を対象に、地元消防団員による住宅用火災警報器の設置や機器の交換支援活動を展開していきます。

#### 7 おわりに

近年の自然災害の猛威に対処していかなければならないことを草津市消防団全団員が理解しながら、消防団員の確保を始めとする消防装備の充実等の課題に向け、1日も早く解決していくための努力をして、市民が「安全」で「安心」した生活が送れるよう、関係機関の協力を得ながら取り組んでいく所存でございます。



草津市観光マスコットキャラクターたびまる



# 「自然豊かな郷土を 守るために」



津市消防団 白山方面団長 森田 政彦

## 1 白山町の紹介

白山町は、三重県津市の西部に位置し、(白山町名の由来となった「白鷺伝説」で知られる比咩神社が建立され、現在も各地の氏子によって祭られています。)西はツツジの名所である青山高原などの700m級の山々によって布引山脈を形づくり、青山高原の山頂付近には、高さ75m(最頂部までの高さ)、ローター直径50mの、大きさ発電量共に国内最大級の風車が24基設置されており、やさしいエネルギーを生み出しています。

また、近鉄大阪線の東青山駅前に広がる15万㎡の広大な自然公園「四季の里」には、様々なハイキングコースが整備されており、滝や旧近鉄線跡など変化に富んだコースに多くのハイカーが訪れる自然豊かな町です。

## 2 白山方面団の概要について

平成18年1月に、旧10市町村が合併し、新「津市」が誕生。平成22年に津市消防団1団化に伴い、白山方面団として新たなスタートを切りました。白山方面団は団本部、小学校区単位の5地区の分団と女性の分団で構成されており、団員数は方面団長以下263名で組織されています。当方面団本部



新春訓練でのラッパ隊演奏

には「ラッパ隊」と「救護隊」が結成されており、ラッパ隊は式典や訓練などで団員の士気高揚のためラッパを吹鳴します。隊員のほとんどが管楽器の未経験者ですが、日々の訓練や、月2回の津市消防音楽隊員や講師を招いての指導を受けて吹奏技術の向上に努めています。救護隊は平成16年に、大規模地震災害時に全団員が被災した自分



救護隊による応急処置訓練

の家族や地域住民を適切に応急処置ができるように結成され、毎年6回、消防署員の指導の下、心肺蘇生法や外傷処置等の訓練に励んでいます。

女性団員については、平成22年に「しらさぎ分団」を結成し、防火啓発、消防団員入団促進、救命訓練に取り組んでいます。

平成27年度には、消防無線のデジタル化に伴い、現場活動、訓練時における情報共有の徹底を図るために各分団にデジタル携帯無線機を配備しました。



出初式での一斉放水

### 3 白山方面団の活動について

白山方面団の主な活動は、4月の辞令交付式を皮切りに、5月の初任者・機関員及びラップ手訓練、白山地域水防訓練、6月の津市消防団夏期訓練、8月の夏期実践訓練（各分団が順番に立案）、10月には林野火災に備え、隣接方面団と三重県防災航空隊との連携訓練を実施、11月の防火パレード・防火啓発及び白山地域防災訓練での指導、12月には、防火安全祈願のため、京都府愛宕神社への参拝と年末警戒を行っています。1月には津市消防出初式に参加し、白山方面団活動の締めくくりとして白山方面団新春訓練を実施しています。その他にも、毎月2回のポンプ点検、消防活動の他にも、地域との関わりを大切にして、夏祭りや運動会での警戒、プール時期における救急訓練指導など地域の行事にも参加し、地域の安全を守り続けています。

### 4 終わりに

地域に詳しく、防災リーダーでもある消防団は、地域住民の心強い味方であり、必要不可欠な存在であると感じています。大規模災害時には、我々消防団の迅速な判断、活動が重要となってきますので、現状に満足することなく日々精進してまいりたいと思います。



三重県防災航空隊との連携訓練



## 「市民の安心安全を守る為に！」



糸満市消防団 団長 新垣 幸生

### 1 糸満市の紹介

糸満市は、沖縄本島最南端に位置し、総面積46.62km<sup>2</sup>、24,322世帯、60,099人が住んでいます。

本市は旧暦文化を大事にし、旧暦5月4日に大漁を祈願する糸満ハーレー（海神祭）、旧暦8月15日には五穀豊穡を願う糸満大綱引きが行われる、漁業・農業共に盛んな地域です。又沖縄戦終焉の地として日本各県の慰霊碑が建立されている事でも有名です。

### 2 糸満市消防団の紹介

糸満市消防団は戦後昭和21年に再編され、昭和37年当時の琉球政府消防組織法により新たに糸満町消防団としてスタートしました。現在3分団6班50名（条例定数50名）にて活動しています。

団には、小型ポンプ付積載車2台が配備されており、今年度中に総務省消防庁より救助資材搭載型ポンプ車の貸与も決定しています。



消防団点検



消防操法大会

### 3 糸満市消防団の活動

糸満市消防団の活動は1月の出初め式に始まり、消防特別警戒、普通救命講習、規律訓練や火災防御訓練の他、特に女性団員には防災意識の啓発のため、幼児や高校生への防火教室の実施や住宅用火災警報器の設置活動に取り組んでいます。

沖縄県は年間数回の台風が接近しますが、暴風警報発令と同時に団員に招集を掛け警報解除まで常備職員と共に出動態勢を取っています。又、本市は戦後広大な埋め立てをし多くの住宅地を造成しており、大多数の市民が低地帯にて生活をしています。その為各自治体にて自主防災組織を立ち上げており、津波避難訓練にも力を入れており、我が消防団も積極的に協力しています。

隔年に行われる沖縄県の操法大会に於いても毎回好成績を収めています。

### 4 おわりに

地域防災力の強化に伴い、徐々に消防団も整備も充実しており、今年度救助資材搭載型ポンプ車の配備も決まっています。これらの機材を十二分に活用できるよう今後も訓練を重ね、市民の安心安全の為にこれからも団員一同頑張ってまいります。



## シンフォニー（神奈川県） 「全ては定例会から～」

伊勢原市消防団 本団 班長  
石井 弦巳

私達の住む神奈川県伊勢原市は人口が約10万人で神奈川県ほぼ中心に位置しています。

そして伊勢原市といえば有名なのは「大山」です。かつて大山詣で栄えたこの地域はこのたび、神奈川県が進める「新たな観光の核づくり」事業に横浜、箱根、鎌倉に続いて認定され、海外にも強力に発信できる観光地づくりを進めています。

現在は新東名高速道路や国道のバイパスの整備も始まり、大きく変貌しようとしています。

また、山林から里山が広がり恵まれた自然環境と温暖な気候でフルーツの里としても有名です。

さて、私達女性消防団員が発足した経緯は、まず始めに、平成2年に女性防火指導員という形で発足し、その後、火災予防啓発のみならず様々な場で活動するべく、平成22年4月1日より神奈川県下で6番目の女性消防団員として始動しました。

現在、20人で活動しており、伊勢原市は男性・女性共に団員数の減少が無く活発な活動が行われており、私たち女性消防団員は主に救急救命講習の指導や、地元自治会の防災訓練などでの消火器の取扱い説明、市内のおまつりの警備などを行っています。

また、春と秋の火災予防運動の時期には駅前にて園児と一緒に火災予防の呼びかけ



火災予防運動（園児）



定例会

や、予防課の職員と一緒に独居老人宅へ訪問しての防火指導を行っております。訪問先の方々からは、「女性が来ていただけると安心する。」と、好評をいただいております。

そしてなにより私たちの活動で特徴的なのは毎月行う定例会です。定例会が始まる前には、消防署員の方々より礼式訓練などを行ってもらったりもします。

私達にとって月1回の定例会はとても大事な時間です。全員働いており、また、子育てや家族の介護をしている女性もいる中で貴重な時間を割いて集まっているわけですから大切に使うなくてはなりません。その話し合いの中で生まれたのが、心肺蘇生の手順を説明しながらの「いせはら救命体操」や、全員で手話を学び消火器の取扱い方の説明を替え歌と手話で伝える「消火器の歌」などです。

また、先日行われた女性消防団員活性化佐賀大会では、女性消防団員として活動を始めてから5年が経過したため、ひとつの区切りとしてPR展示も行いましたが、その展示内容も定例会で決めました。

軽可搬ポンプ基本操法の訓練を受けること、視察研修先や内容など、全てこの月1回の定例会から生まれ、全員で話し合っただけのものなのです。



劇の練習

私たち女性消防団員は、これからも定例会の中で様々な意見を出し合い、そして自治会の防災訓練や出初式、学校、おまつりなど市民の方々が集まる場所で活動し、地域の方と共に繋がる消防団でありたいと考えております。

最後に、ここまで活動を続けてこれたのも団長はじめ本団の皆さん、消防署、消防本部、消防団員家族の協力があることです。全ての方に感謝しながらこれからの消防団活動を続けていきたいと思っております。



佐賀大会展示コーナー

# 「第22回全国女性消防操法大会に優勝して」

福岡県福岡市早良女性消防隊 隊長 大野 慶子



## 1 はじめに

福岡市は、明治22年の市制誕生から今年で126年目を迎えました。

本年の9月には人口が153万人を突破、若年層の流入により、来年にも神戸市を抜き政令市の中で5位となる勢いで人口増加が続いており、全国的にも「元気なまち・住みやすいまち」として福岡市の存在感が益々高まっています。

その福岡市（7行政区）において、早良消防団が管轄する城南区・早良区は、市中心部の西側に南北に長く広がる地域に位置しており、北には博多湾、西には室見川、南には緑豊かな油山や脊振山系がそびえ立つ自然豊かな地域です。

また、福岡市のシンボルである福岡タワーが市域を眺望し、福岡市博物館、総合図書館などの近代的な建物に加え、大学や高校などの多くの学究施設が立地する傍ら、その周囲には、昔ながらの商店街が軒を連ねるなど、今なお趣のある街並みを形成しています。

## 2 福岡市早良消防団の紹介

早良消防団は、1本部8分団（城南区2分団・早良区6分団）385名（うち女性団員28名）で構成されており、昭和61年10月の分区に伴い、現在の組織体制となって本年度で発足30周年を迎えます。

本団は、災害現場はもとより災害対応のための訓練、地域の自主防災訓練への参加、消防広報など、日頃から地域における様々な活動に積極的に参加しており、地域住民からの信頼も厚いものと確信しています。

## 3 これまでの女性団員の活動

福岡市の女性団員は、それぞれが各分団に所属しており、応急手当普及講習等の指導や高齢者宅を訪問し災害に対するアドバイスを行う等の活動を行っています。

さらに早良消防団では、これらの活動のほか、市民に消防団を広く知ってもらうため、平成24年度にハンドベル演奏チーム「チャイムズ」を結成し、出初式や地域で開催される敬老会やクリスマス会などに参加して、演奏を通じて消防団の広報活動を行っています。

## 4 早良女性消防隊の発足（まず、やってみらんね）

平成25年度の大会までは、県下の消防団が輪番で全国大会に出場していましたが、今回の福岡県女性消防操法大会から優勝チームが全国大会に出場することとなりました。

それまでの私たちの活動といえば、予防広報・応急手当の普及活動などにとどまっていましたが、女性団員のなかには、「さらに活躍の場を広げていきたい」と志を持った団員も数多くおり、全国大会への選抜方法の見直しを機に、団幹部に対して「ぜひ出場したい!」との声があがりました。

当初は、ただ漠然と「出場したい」という気持ちだけが先行して「本当に私たちにあのポンプ操法ができるのだろうか?」といった不安もありましたが、そんな不安を掻き消してくれたのが、団長をはじめとする団本部や所属している各分団長の「まず、やってみらんね!それからたい。」という優しい一言でした。



この背中を押してくれる一言が、心の中で溢れかえていた不安や戸惑いを一掃させ、「体力に自信あり!」や「やる気だけは負けません!」といった高い志を持った団員が集う早良団初となる“女性消防隊”が結成されました。

## 5 訓練の取り組み(いざ、未知の世界へ!)

訓練指導は消防署の指導経験が豊富な職員の方々と思っていたら、「女性の操法は教えたことがなかばい!」と、教える側も習う側も未知の世界へ足を踏み入れるところからのスタートとなりました。

まずは訓練計画を立てることから始めました。そして、今年の1月から規律訓練と、操法訓練を怪我なく行えるだけの基礎体力づくりを集中的に行いつつ、並行して過去の全国大会の映像を見て操法のイメージを頭の中に焼き付けました。夢にも出てきたほどなので、これがホントの「寝ても覚めても・・・」の境地かもしれません。

しかし、操法の厳しさとその奥深さを味わうのはこれからが本番です。

一つひとつの動きを頭で理解できていても、身体がついてきてくれず、大会が終わるまで歯痒い気持ちに涙する日々の連続でした。

## 6 初出場の県大会(緊張と失敗)

4月からは、いよいよ実際に軽可搬ポンプを使用して、操法の基本技術の習得を目的とした訓練が始まりました。

全員が一連の流れで行う訓練では、それぞれの選手が「自分のせいでチームに迷惑はかけられない。」という一心で、訓練用のシューズを何足も履き潰すほどに集中して訓練に励みました。

操法技術も熟達してきた8月には、男性の「ポンプ操法早良団大会」や「福岡市大会」が開催された際に、女性操法の訓練展示をする機会を与えられ、大勢の団員や観客がいる中で操法するという貴重な経験を積むことができました。

早良団大会での訓練展示では緊張のあまり、



初出場県大会

これまで当たり前できていたホース延長がうまくいかずに標的がなかなか落ちないなど、本番で力を発揮することがいかに難しいかを痛感させられました。

そして9月6日、初出場の県大会当日。

ここに至るまでに経験してきた緊張と失敗が活かされ、選手たちは精一杯の操法を実施し見事、目標としていた横浜までの切符を手にすることができました。



いざ!操法開始!

## 7 いざ全国大会横浜へ!(来ちゃいました)

横浜の大会会場は、私たちにはとても大きく感じ、全国から集まった女性団員達で熱気に溢れていました。刻一刻と迫る実施順に緊張は高まるばかりです。

そして、会場全体からの猛烈な熱気に選手全員の気持ちが呑み込まれそうになったとき・・・

「内緒で応援に来ちゃいました。(^^)」と、選手の家が会場に突然現れ、笑顔をプレゼントしてくれたのです。その嬉しいサプライズ

が緊張していた選手たちの気持ちを一気に和ませてくれました。

さあ集中!と選手をコースに送り出し応援席を見上げると、応援席には福岡市消防団や県大会で競い合ったライバルの久留米市消防団の方々などの大応援団が目飛び込んできました。



サプライズで応援に

そんな心強い応援の中、選手たちは気持ちを落ち着かせていつもどおりのルーティンで集中力を高め、「この場に立ったら、あとは楽しむだけ!」とコース上に足を踏み入れました。しかし、その後の私は「操法開始」の合図から「撤収」まで何がなんだったのか全く思い出すことができません。

験には、選手が何百回と訓練で繰り返してきたスムーズな動作の残像だけが残っていました。

操法が無事終わり応援団のもとで感極まって涙する選手たちを見て、はじめて「優勝したんだ」と実感することができました。そしてこの素晴らしい仲間と過ごした“大切な時間”を私は生涯忘れることはないでしょう。

大会も終わり、その日の夜に福岡まで飛行機で帰ると・・・

空港には、横浜まで応援に来ることができなかった多くの団員が「優勝したって聞いて、いてもたってもいられんけん来たよ。」と選手一同を心温まる満面の笑顔で迎えてくれました。



無事操法終了!

この日は、私が人生で一番涙を流した一日となりました。



全国大会優勝



空港に到着すると

## 8 「絆」

夢にまで見た全国大会で優勝という成績を残すことができた軌跡を今振り返ると、その背景には、団本部、各分団員のご支援に加え、いつも快く訓練に送り出してくれた家族そして消防職員の方々他、数多くの方々からのご協力があったからこそこの快挙なんだと、感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、この操法大会でより一層強く結ばれた早良消防団の「絆」を胸に、私はこれからも地域防災の要として着実に歩みを進めていく所存です。



優勝報告式

# 「えひめ愛顔(えがお)で消防団員応援プロジェクト事業」を訪ねて

赤羽消防団 副団長 小澤 浩子



平成27年11月19・20の両日に、「愛媛県消防団応援の店」の現地調査に伺いました。穏やかな天候の松山空港には県のイメージアップキャラクター「みきゃん」の笑顔が溢れ、愛媛県消防協会・小倉一幸事務局長と菅恵子主事が出迎えて下さいました。

今後南海地震の発生も懸念される愛媛県の消防団数は、20団。団員総数は、20,451人(条例定数21,742人)。うち女性団員は575人。大学生等の団員107人、機能別団員396人も活動しています。(平成27年4月1日現在)やはり一番の課題は団員の減少傾向。県では消防協会役員が団活動のPRと団員募集呼び掛けのため、各事業所等を「消防団員確保対策キャラバン事業」で戸別訪問するなどしています。

## 「えひめ愛顔で消防団員応援プロジェクト」とは

愛媛県では松山市で24年度から消防団応援事業「まつやま・だん団プロジェクト」がスタート。私も平成25年6月に聞き取りをしましたが、団員や協力店に好評で、松山市内だけでなくもっと広い範囲での実施が望まれていました。平成26年に就任された愛媛県消防協会の土居敏夫会長(久万高原町消防団長)が熱心に取り組み、平成26年4月1日から愛媛全県の消防団を対象に、この事業が始まりました。松山以外の都市でも検討が始まっていたことから、急速に広がったのです。

目的は、地域ぐるみで「みんなのえひめをみんなで守る」ため、消防団員に感謝の気持ちを持ち、団を県民全体で応援しバックアップすること。団員増につながればと期待されています。

事業の仕組みは、「応援事業所」として登録する店舗等で会員証(カード)を提示する消防団員(家族・同伴者を含む)が、各種サービスや割引等の優遇措置を受けられるというもの。応援事業所内には「消防団員募集ポスター」を掲示する等、さまざまな形で消防団の応援をしています。

会員証は、法被を着て纏を持つ「みきゃん」をあしらった、名刺サイズ。薄いプラスチック製で、管理を簡便にするため顔写真は入れず、消防団名と団員氏名を記載。団員一人に一枚のカードで、家族も使えます。

応援事業所の業種は多様で、飲食店や小売店、宿泊施設、代行運転、レジャー施設、ガソリンスタンド、など平成27年11月10日現在で314店舗の協力があります。松山市の登録店舗も県に協力して下さるところが多いそうです。事業所の勧誘は、消防職団員などが軒一軒足を運び、趣旨をご理解いただくため直接説明します。時間も労力もかかりますが、この熱意が多く事業所に伝わります。いつも登録申込書を持参して勧誘に励む消防団長もあるそうで、団員たちも仲間を増やせればと、店舗開拓の意識を持っています。中には消防協会のホームページを見ての申込みも多いとか。ホームページの閲覧数がかつての約3万件から10万件以上に増加しているそうで、関心の高さがうかがえます。

多くの県民に周知するため、事業所へA5サイズの「表示ステッカー」交付式を行い、新聞各社等を通じ広報を実施。普及推進活動のため「纏みきゃん」のぬいぐるみも作成しました。

関連経費としては、平成26年度に応援事業

所用ステッカー、会員証、チラシ、ぬいぐるみの作成に約100万円。平成27年度は約147万円の予定です。

いくつかの登録店に伺いました。

## 洋服の青山 松山店

広島県福山市に本社がある「洋服の青山」は、全国に店舗を持つ大型洋服店。聞き取りには、本社法人部・植野良課長と、渡邊裕子副支店長が応対して下さいました。

登録のきっかけは、市役所に勤務する大洲市の消防団員から大洲支店に協力依頼があったこと。当初は「消防団員もスーツを着るのだろうか」と疑問があったものの、消防団についての説明を聞き、団員も日頃は生業を持ち、会社員や公務員も多く、背広を着用する機会が多いことを知りました。元々「青山」には大企業を対象にTIEUPカード（ポイントカード）を発行する「法人提携割引制度」があり、本社で検討した結果県下全域で実施することになり、平成26年8月1日にスタートしました。会員証持参の団員は、全国の店舗で使えるTIEUPカードの発行を受け、「青山」での最高ランクの割引が受けられることになりました。「青山」では年4回販促用のチラシを作成し、全消防団員に配布しています。今ではその内容も男性向けだけではなく、家族や女性団員も視野に、女性や子供向け商品も掲載。利用団員の満足度も高く、新規の顧客を70%程得た「青山」も、大いに効果を実感しています。



洋服の青山において

各店舗の表示は本社で決められており、「表示ステッカー」は、レジ等店内に掲示されています。今後、もしこの事業が全国展開しても、当社で統一したステッカーを作成して対応する等、協力は惜しまないとのこと。事業の登録により、「青山」の皆さんに消防団を理解していただいた効果も絶大です。

## 久万高原町にて 土居会長のお話

情報機器販売会社を経営される会長事務所、久万高原町消防本部・菅壮一郎氏同席のもと、土居会長からお話を伺いました。

久万高原町は松山市から約34キロ、愛媛県のほぼ中央部の山間地域。総面積584平方キロメートルと広大です。平均標高800メートルで冬はスキーも楽しめ、一年を通じ、どの季節に訪れても豊かな自然に包まれる町です。人口は9,072人・4,678世帯（平成27年10月末現在）高齢化率は43%を超え、過疎高齢化が進展中。消防団員は670人（内女性24人）と、人口に比し、団員の率が高い地域です。まちの自営業の方はほとんどが消防団員。広範囲に集落が点在するため消防団の存在は重要で、住民の信頼度も高いそうです。

会長は県内20消防団の行事に自ら足を運ぶ積極的な方。消防団応援プロジェクトにも大変意欲的で、「登録店舗数1000店」が目標です。都市ごとに50の店舗を確保すれば目標は達成できると強気です。「このような事業は、登録店が多い程魅力も増し、宣伝効果もあり、今はまだ1/4ほどの団員が遠慮や照れからカードを使っていないが、どの団員もカードを使いやすくなる」とのご意見で、その通りだと思います。登録は飲食店が多い状況ですが、自動車メーカーの整備工場にも協力して欲しいと考えています。また団員の要望も多い、大型スーパーに協力を要請したところ、複数の県に店舗があることから、愛媛県だけの実施は難しいとの回答でした。「今後この事業が全国的に展開したら可能になる！」と夢は膨らみます。

## 町立久万美術館

土居会長にも同伴していただき、「久万高原美術館」を訪ねました。山の木々にしっとり溶け込む、大変珍しい木造建築（久万高原町の木材を使用）の美術館で、平成元年のオープンです。同じく町立の、天体観測館、面河山岳博物館の3館が登録しており、「町」が消防団を応援する姿勢です。他社サービスの割引と同様、いずれも入館料が20%割引。美術館統轄事務局・玉泉豊事務局長に説明を受けました。



久万美術館の玉泉さんと土居会長

入館者の内訳は他県や松山市等、他都市の方が多くそうです。ニューヨークタイムズ紙が作成した「2015年世界で行くべき街52選」に四国が紹介され、「日本で見たい場所50選」に久万高原町の45番札所・岩屋寺が選ばれたことから、外国人の来館者も多く、まさに国際的にも認知されている施設です。是非この事業を全国展開し、日本中の消防団員に広めてもらいたいというご意見でした。「表示ステッカー」は外観保持のため館独自で工夫して受付に立てています。

## 吉野屋菓子店

会長宅の隣ということで、勧誘され登録しました。当地で昭和57年から営業。ご自身も消防団員として活動する吉野利嗣さんにお話を聞きました。

「吉野屋菓子店」の主力商品は自慢のカステラ。父親と二人で早朝から作業しています。消防団応援の店に関しては、松山市に出かけた際立ち

寄ったカラオケ店が協力店舗で、その時はカードを持っていなかったけれど、自分も利用したいし、とても良い制度だと思っています。サービスは計算しやすく全商品1割引。利用者が少ないと赤字になってしまうので、沢山の方の購入を希望しています。サービス店の案内が掲載されるように、消防団にもしっかり広報をして、他都市の多くの団員の来店も願っています。全国展開にも賛成で、会員証は団員の身分さえ確認できれば十分とのこと。当店のカステラは、ほんのり甘く温かい自然な味です。



吉野屋菓子店の吉野さん

## 大洲市にて ダイヤスポーツ

調査2日目に訪れた大洲市は、市の中央部を清流「肱川」が流れ、伊予の小京都と呼ばれる旧城下町。大洲駅前では、ちょうど幼年消防クラブの火災安全パレードを実施中でした。法被姿で「戸締り用心・火の用心」と声を張り上げる子どもたちの姿はほほえましく、頼もしいものでした。

大洲市消防団員数は1,471人（内女性37人）。中川一夫大洲市消防団長（県協会業務執行理



ダイヤスポーツの谷本さん

事)と、大洲地区広域消防事務組合消防本部・和気と清課長補佐が同行して下さいました。

「ダイヤスポーツ」は、駅前のスポーツ用品店で、野球を中心に、テニス、ゲートボールなど多種のスポーツ用具等を販売しています。谷本直俊専務にお話を伺いました。登録のきっかけは取引のある大洲消防署からの依頼で、登録は平成26年4月。スポーツ用品店はそれぞれのまちごとにありますが、最近隣町のお客さまも増え、この事業が口コミで広がっていることを実感しています。セール時の割引と通常の割引の間を取り、応援事業では最新モデルも含め15%の割引を設定。割引いても、来客が増える方が有り難いということです。当店では支払い時に気付いてもらおうと、店独自の小型ポスターを作成し、レジ前に掲示しています。団員の家族が来店し、「夫も消防団員だけど、そんな制度があるの?」と驚くこともあるとか。今後は家族向けのきめ細かい広報も是非必要、とおっしゃっていました。また、家族を意識してケーキ屋さん等にも協力を依頼しては、とアイデアもいただきました。インターネット販売が主流となりつつある現在、店舗での買い物客が増えれば、販売店等の活性化にもつながるとのご意見です。

### 大洲市お食事処 山善(さんぜん)

「山善」はこの地での営業歴8年の、住宅地の中のお料理屋さんです。板場で腕をふるう父親を中心に家族で切り盛りをしています。若女将の渡部かおりさんにお話を伺いました。



山善の渡部さんと中川団長

車での「お客さま送迎サービス」に加え、低料金で美味しいお料理が大盛りで提供されることから大繁盛のお店です。役所の危機管理課と、消防職員の勧誘で平成26年4月に登録しました。消防団員にはこれまでもサービスをして下さっており、これ以上カードを出す必要もないほどのです。それでも渡部さんは、登録前より後の方が応援しようという気持ちが強くなったと言います。

ちょうど昼食時間になり、鯛飯定食をととても美味しくいただきました。

### 大洲市 中川一夫消防団長のお話

養豚業を営む、中川団長にお話を伺いました。この地域は火災が発生すると消防署より消防団の車両数の出動が多く、また行方不明者の捜索には、130人程の団員が集まります。そのため消防団の存在意義は高く、後援してくれる団体も多いそうです。事業の今後の対応を考える上で、アンケートの実施を検討しています。団長として、応援事業の登録店舗には本当に感謝しているということでした。

### 聞き取り調査を終えて

「おもてなしの県」の聞き取りでは、貴重な収穫が沢山ありました。制度がスタートして日も浅く、実際に団員の加入が促進されたかどうかは、まだ不明です。けれど、まちのさまざまな方と消防団員との絆は確実に強まっており、消防団への理解も深まっているようです。今後はさらに、丁寧でインパクトの強い広報が求められます。地元を大切にしたい店、多くの来店を望む店、それぞれの想いや地域性を活かし柔軟な運営が肝要かと思います。

土居会長や登録店舗の方が期待するように、もしこの取り組みが全国に広がれば、消防団に新しい時代が訪れるのではないのでしょうか。

沢山の笑顔(愛顔)を育む「えひめ愛顔で消防団員応援プロジェクト」の益々の発展を期待しています。

# 消防団を中核とした地域防災力の 充実強化の在り方に関する答申

総務省消防庁総務課

## 消防団を中核とした地域防災力の充実強化の在り方に関する答申

第27次消防審議会（消防庁長官の諮問機関。会長・室崎益輝神戸大学名誉教授）において、平成26年2月13日に「消防団を中核とした地域防災力の充実強化の在り方」について消防庁長官から諮問を行いました。

それを受け、消防審議会において審議が行われ、この度、諮問に対する答申が取りまとめられましたのでお知らせします。

### 1 答申に至る経緯

- 平成25年の臨時国会で議員立法により「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が成立したことを受け、同法を踏まえた消防団の強化の在り方及び地域防災力の強化の進め方について調査審議いただくため、上記諮問を行ったもの
- 審議会においては幅広い議論が行われているが、消防団への加入の促進を始めとする消防団の基盤の強化のうち取組が特に急がれる事項を中心として、昨年7月に中間答申が取りまとめられた。その後の取組の進展状況や残された課題に対する更なる議論を行い、今回最終答申として取りまとめられたもの

### 2 答申の主な提言内容（詳細は添付資料を参照）

#### (1) 地域防災に関する事項

- 地区防災計画・具体的事業計画の策定は、地域防災に関わる組織、住民等多様な主体が参画・議論するための非常に有益な機会
- 地域防災の担い手を育て、住民を巻き込む観点からの消防団等による地域の防災に関する住民の理解を促進
- 地域における防災分野への女性の参画を推進

#### (2) 消防団に関する事項

- 「消防団協力事業所表示制度」の未導入市町村に対する制度導入の徹底
- 在勤者の入団を認めていない市町村において入団を認めるよう全国に徹底
- 女性のいない消防団等における女性入団の更なる促進
- 通学先の市町村でも入団を可能とするよう働きかけ
- 消防団活動で地域社会に貢献した大学生等の実績を市町村が認証する「学生消防団活動

認証制度」の導入を促進

- 機能別団員・機能別分団制度の再評価、消防団員の処遇改善、消防団員の装備・教育訓練の改善、消防団の広報啓発活動の充実により消防団を強化

### (3) 国民運動の展開

- 平成27年度に2カ所で地域防災力充実強化大会を開催。引き続き幅広いPR活動等の取組を進めるべき
- 平成28年で東日本大震災から5年、消防団等充実強化法の成立から3年。同法の基本理念に則って、国民運動を展開し地域防災の取組の輪を広げることが重要であり、そのことが地域防災力の中核である消防団の充実強化にもつながるもの

「消防団を中核とした地域防災力の充実強化の在り方に関する答申」の詳細については、消防庁ホームページ ([http://www.fdma.go.jp/neuter/houdou\\_01/houdou27nen.html](http://www.fdma.go.jp/neuter/houdou_01/houdou27nen.html)) でご覧になれます。

## 第27次消防審議会の概要

### 審議事項 「消防団を中核とした地域防災力の充実強化の在り方」

#### 1 消防団の強化の在り方

近年の社会情勢の変化を踏まえ、今後どのように消防団員の確保を進めていかなど、「消防団の強化の諸課題」について検討。

#### 2 地域防災力の強化の進め方

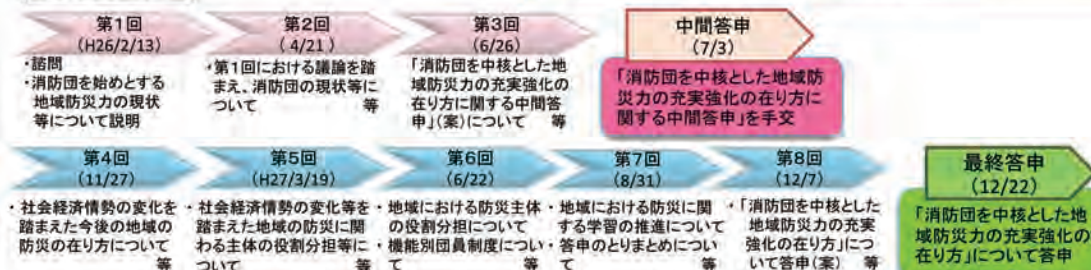
消防団を中核とした地域防災力の強化を国民運動として盛り上げていくにはどうしたらよいかについて検討するとともに、常備消防を始めとする関係機関や自主防災組織など民間の地域防災力の担い手との役割分担・連携などを検討。

### 委員一覧

<委員> (◎:会長 ○:会長代理) (平成27年8月5日現在)

青山 佳世	(フリーアナウンサー)
青山 繁晴	(株式会社独立総合研究所 代表取締役社長)
石井 正三	(公益社団法人日本医師会常任理事)
片田 敏孝	(群馬大学大学院理工学部教授)
木沢 トモ子	(栃木県婦人防火クラブ連合会会長)
岸谷 義雄	(公益財団法人兵庫県消防協会会長)
重川 希志依	(常葉大学大学院環境防災研究科長)
高橋 淳	(全国消防長会会長)
○田中 淳	(東京大学大学院総合防災情報研究センター長・教授)
宗片 恵美子	(特定非営利活動法人イコールネット仙台代表理事)
◎室崎 益輝	(神戸大学名誉教授)
和合 アヤ子	(福島県商工会議所連合会理事)
<専門委員>	
秋本 敏文	(公益財団法人日本消防協会会長)
小川 和久	(特定非営利活動法人国際変動研究所理事長)
清原 慶子	(三鷹市長)
関澤 愛	(東京理科大学大学院国際火災科学研究所教授)
山本 保博	(一般財団法人救急振興財団会長)

### 審議の状況



### 連絡先

消防庁総務課 橋本補佐、高柳事務官、山田事務官  
電話 03(5253)7506(直通) FAX 03(5253)7531



# 平成27年版消防白書の概要

総務省消防庁総務課

平成27年版消防白書が、平成27年12月22日に公表されました。ここでは、その概要について紹介します。また、白書の全文については、消防庁ホームページ（<http://www.fdma.go.jp/concern/publication>）でご覧になれます。

## 阪神・淡路大震災から20年

～2つの大震災を踏まえた消防防災体制の充実～

平成27年は、阪神・淡路大震災から20年に当たる節目の年である。この20年間、阪神・淡路大震災を教訓に、消防においても様々な対応がなされてきた。

その1つが緊急消防援助隊であり、阪神・淡路大震災で明らかとなった課題に対応し、大規模災害時における人命救助活動等を効果的かつ迅速に実施しうよう、平成7年6月に創設された。以後20年間、緊急消防援助隊の出動回数は30回にのぼり、本年も口永良部島噴火災害、平成27年9月関東・東北豪雨に対して出動した。

阪神・淡路大震災においては、地域の防災力の重要性も注目された。地震発生直後から地域住民による応急活動が行われ、住民や地域企業の自衛消防隊の消火活動により火災の延焼が防止され、消防団はどの場所で誰が生き埋めとなっているかを察知して救出活動で活躍した。こうした経験を経て、自主防災組織の育成などの地域の防災力の充実強化に向け、各地で積極的に取組がなされた。

東日本大震災では、地震発生後直ちに緊急消防援助隊が駆けつけ、地元の消防本部等と協力して約5,000人の救助を行うとともに、福島第一原子力発電所における放水活動や、大規模コンビナート火災に対する消火活動など、様々な場面で活躍し、被災地の住民に大きな安心を与えた。また、被災地の消防職団員は、地震発生直後から避難誘導や災害防衛活動に従事し、多くの命を救ったが、一方で、津波によって300人近くが命を失い、地域防災の中核となる消防団の重要性がクローズアップされるとともに、災害対応中の安全管理や装備などの充実につながった。

緊急消防援助隊に代表される広域消防応援と、地域の防災力の充実強化の取組は、20年の歳月と東日本大震災の経験を経て、南海トラフ地震や首都直下地震といった巨大地震や各地で頻発する豪雨災害、火山災害などに対応するため、今後ますます重要な課題となっている。

今後、消防庁としては、消防審議会の各種答申及び「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」を踏まえ、東日本大震災を含めた自然災害や火災事故における教訓をもとに、創設20周年を迎えた緊急消防援助隊の充実強化、消防団を中核とした地域防災力の充実強化など、消防防災体制の充実強化に努め、国民の命を守る消防防災行政を進めていくこととしている。



消防隊による消火活動（阪神・淡路大震災・神戸市）



緊急消防援助隊の救助活動（東日本大震災・名取市）

## 創設20周年を迎えた緊急消防援助隊（特集1）

### 緊急消防援助隊の充実強化に向けて

・緊急消防援助隊が更なる発展を遂げるためには、迅速な出動と展開、消防防災ヘリコプターの運用強化、関係機関との連携、車両・資機材の充実、ICTの積極的な活用等の課題に取り組むことが必要

- 発災後直ちに先遣出動する「統合機動部隊」を新設し、運用の具体化を図るとともに、部隊を迅速に展開するため、輸送路の複数化・多重化、自衛隊や民間の輸送機・船舶の確保など、輸送の確保に係る取組を推進
- 平成27年9月関東・東北豪雨では、県災害対策本部で航空運用調整を行い、関係機関を含めたヘリコプターの活動区域・任務分担、救助者の搬送先等を調整して、限られた空域で円滑に救助活動等を実施
- 大規模災害時等においては、現地合同指揮所での情報共有・任務調整に加え、DMA Tやドクターヘリと連携した広域医療搬送、救助活動中の安全管理に関するTEC-FORCEとの連携など、関係機関と幅広く連携を実施
- 通信途絶地域で情報収集を行う無線中継車、被災地で長期の消防応援活動を行うための拠点機能形成車両、水陸両用バギーを搭載した津波・大規模風水害対策車両など、厳しい環境下で消防活動を展開するために必要となる車両・資機材を配備
- 出動した部隊の状況や被害情報等を地図上で視覚的に共有できる緊急消防援助隊動態情報システムや、全国の消防防災ヘリコプターの位置情報や運航情報を共有できるヘリコプター動態管理システムなどを整備



現地合同指揮所における関係機関間の活動調整  
(平成27年9月16日・常総市役所)



水陸両用バギーによる冠水地域での救助活動  
(平成27年9月16日・常総市) (日立市消防本部提供)

### 訓練の推進

・緊急消防援助隊が速やかに応援部隊を編成して出動し、各部隊が一元的な指揮の下に連携した活動を実施するためには、平時からの緊急消防援助隊としての教育訓練が重要

- 全国合同訓練は5年ごとに開催され、平成27年11月には、千葉県で第5回全国合同訓練を実施
  - 警察、自衛隊、海上保安庁、DMA T等の関係機関を含め、約3,000人が参加
  - 複合的かつ広範囲な災害を想定し、図上訓練、部隊参集訓練、実動訓練を連動
  - 陸路による進出のみならず、自衛隊の輸送機・大型ヘリ、民間のフェリー・航空機など多様な手段により参集
- 全国を6つのブロックに区分し、毎年、地域ブロックごとに合同訓練を実施



第5回緊急消防援助隊全国合同訓練の様子  
(平成27年11月14日・市原市)

### 進化する緊急消防援助隊

・災害が多発する我が国で、ますますその役割が重要となっている緊急消防援助隊については、これまでの経験の蓄積の上に、新たな課題を予想・設定し、その課題に対応するため、質・量の両面から更なる充実強化を図ることが必要

- 東日本大震災を上回る被害が想定される南海トラフ地震等に備え、大規模かつ迅速な部隊投入のための体制整備が不可欠であることから、平成30年度末までの登録目標隊数を、おおむね6,000隊規模に増強
  - 消火・救助・救急の主要3小隊を合計1,100隊増強し、消火・救助・救急体制を強化
  - 指揮支援隊を20隊、都道府県大隊指揮隊を50隊増強し、指揮体制を強化
  - 後方支援小隊を160隊増強し、後方支援体制を強化
  - 統合機動部隊を新設（50隊）し、初動対応を迅速・的確化
  - 通信支援小隊を新設（50隊）し、通信体制を強化
- 石油コンビナート、化学プラント等のエネルギー・産業基盤の被災に備え、特殊災害の対応に特化したエネルギー・産業基盤災害即応部隊（ドラゴンハイパー・コマンドユニット）を新設し、平成26年度には、2つの消防本部で編成

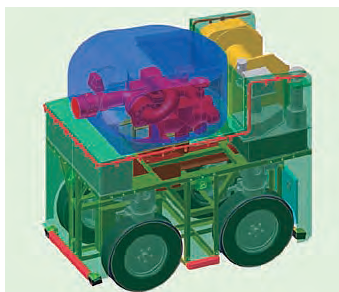


ドラゴンハイパー・コマンドユニットの中核車両である  
大型放水砲車（左）と大容量送水ポンプ車（右）



ドラゴンハイパー・コマンドユニット  
全国統一シンボルマーク

- 石油コンビナートにおける大規模・特殊災害時には、消防隊が現場に近づけない等の課題があることから、安全な場所への災害状況の画像伝送や放水等の消防活動を自律的に行える消防ロボットの研究開発を、平成26年度から5年計画で実施中



設計した消防ロボットの概観  
〔走行型偵察ロボット（左）、  
放水砲ロボット（右）〕

- テロを巡る厳しい情勢の変化や、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会等の大規模イベントの開催を控えていることを踏まえ、イベント会場等における消防の警戒に必要な広域応援体制の構築支援や、必要な車両・資機材等の配備などの取組を推進

## 消防団を中核とした地域防災力の充実強化（特集2）

### 「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」の制定を受けた取組

・平成25年12月、議員立法により、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が成立

#### （消防団への加入促進）

- 総務大臣から各地方公共団体の長あてに書簡を送付し、地方公務員をはじめとした消防団員確保に向けた一層の取組や、消防団員の処遇改善などを依頼するとともに、経済団体あてにも書簡を送付し、消防団活動に対する事業者の理解と協力を呼びかけ
- 消防団員を雇用する事業所の消防団活動への理解と協力を得ることが不可欠であるため、「消防団協力事業所表示制度」の普及を図るとともに、平成27年9月には、従業員が消防団に多数加入している事業所として総務大臣感謝状を受けた事業所及び経済団体との意見交換会を開催
- 消防団に所属する学生に対する就職活動支援の一環として、市町村が活動実績を認証する「学生消防団活動認証制度」の導入に向けた働きかけを実施
- 女性や若者をはじめとした消防団員を更に増加させるため、消防団加入促進モデル事業などを実施するとともに、女性消防団員のいない市町村に対し、積極的な取組を依頼



消防庁が交付する表示証（ゴールドマーク）（左）と市町村等が交付する表示証（シルバーマーク）（右）

- 平成27年7月、消防団員数が相当数増加した消防団等に対し、総務大臣から感謝状を授与

#### （消防団員の処遇の改善）

- 関係政令を改正し、平成26年4月から退職報償金を全階級一律5万円（最低支給額20万円）引上げ
- 年額報酬及び出勤手当について、活動に応じた適切な支給を地方公共団体に働きかけるとともに、特に支給額の低い団体に引上げを要請（無報酬団体は平成27年度に解消見込み）

#### （装備の充実強化）

- 平成26年2月に「消防団の装備の基準」を改正し、ライフジャケット等の安全装備品等の充実を図るとともに、平成26年度から地方交付税措置を大幅に拡充

#### （教育・訓練の充実・標準化）

- 平成26年3月に「消防学校の教育訓練の基準」を改正し、消防団員に対する幹部教育を拡充強化するとともに、消防学校等において消防団員への教育を行うための教材を作成
- 消防学校に対し、救助資機材を搭載した消防ポンプ車両等を計画的に整備

#### （消防審議会）

- 平成26年1月、第27次消防審議会に対して「消防団を中核とした地域防災力の充実強化の在り方」について諮問し、同年7月に早急に取り組むべき事項についてまとめられた中間答申が出され、現在答申取りまとめに向けて検討中

### 最近の消防団等の活躍

- 平成26年11月の長野県北部を震源とする地震では、消防団や自主防災組織が、高齢者の住居等の情報を書き込んだ「支え合いマップ」を活用して救助活動や避難誘導を実施
- 平成27年5月の口永良部島の噴火では、消防団が、噴火直後から住民の安否確認・避難誘導等の活動を開始し、安否確認用の名簿を活用して、正確な安否確認を実施
- 平成27年9月関東・東北豪雨では、各地において、消防団が、消防隊などと連携した救出活動・避難誘導や、住人が不在になった住居に対する警戒のための夜間巡回などを実施



長野県北部を震源とする地震における活動状況



平成27年9月関東・東北豪雨における活動状況

### 引き続き実施すべき消防団の充実強化施策

- ・ 消防団員数は年々減少しており、減少に歯止めをかけ、増加させることが必要
- ・ 被雇用者の割合が高い水準で推移しており、事業所の消防団活動への協力と理解を求めていくことが必要
- ・ 平均年齢の上昇が進んでいることから、大学生・専門学校生等若い世代の入団促進を図っていくことが必要
- ・ 消防団活動が多様化し女性団員の活躍が期待されていることから、女性の入団に向けた積極的な取組が必要

- 全国消防団員意見発表会・消防団等地域活動表彰の実施
- 消防団員入団促進キャンペーンの全国展開
- 雑誌広告等の広報媒体の活用による消防団活動のPR
- 機能別団員など消防団組織・制度の多様化方策の導入
- 消防団員確保アドバイザー派遣制度による団員確保支援体制の構築
- 消防団を中核とした地域防災力充実強化大会の開催



消防団員募集ポスター

### 地域における防災体制の強化

- ・ 地域防災力の充実強化を図るためには、自主防災組織等の活動を活性化させることが重要
- ・ 災害による被害を軽減するには、国民一人ひとりが防災に関する知識や技術を身に付けることが重要

- 消防団と連携した自主防災組織等のリーダー育成を推進するとともに、優良活動事例等を掲載した「自主防災組織の手引」を作成
- 東日本大震災の被災地で活動した消防職団員等を語り部として派遣する「災害伝承10年プロジェクト」事業を実施

# 文化財防火デー

総務省消防庁予防課

昭和24年1月26日、法隆寺金堂（奈良県生駒郡）から出火した火災によって、1,300年の歴史を持ち、世界的な至宝と言われた金堂の壁十二面に描かれた仏画の大半が焼損しました。

その後も文化財の焼失等が相次いだため、このような被害から文化財を守るとともに、文化財愛護に関する意識の高揚を図るため、昭和30年から、消防庁と文化庁の共唱により、法隆寺金堂が焼損した1月26日を「文化財防火デー」と定めて、その日を中心に、各地で文化財関係者、消防関係者、教育関係者及び地域住民の連携・協力により、消防訓練が実施されます。



第61回文化財防火デーにおける消防訓練の様子  
於：丸岡城（福井県）【写真提供 文化庁】



第61回文化財防火デーにおける消防訓練の様子  
於：聖徳記念絵画館（東京都）【写真提供 文化庁】

## ○文化財防火デー実施方針

- 1 国民一般の文化財保護に対する関心を高めるために、教育委員会及び消防機関は、この日を中心に積極的に防火訓練その他の防災訓練等の行事を実施するとともに、広報活動を行い、「文化財防火デー」の趣旨の徹底を図るものとする。
- 2 文化財所有者、管理者その他の関係者は、平素の文化財の防災体制の整備や防災対策の強化に加え、「文化財防火デー」においては、文化財は国民共有の貴重な財産であるということを再認識し、必要な措置を講ずるよう努力するものとする。
- 3 文化財を災害から守るためには、関係機関等及び文化財所有者等だけでなく、文化財周辺の地域住民との連携・協力が必要であることから、「文化財防火デー」においては、そのような地域の連携体制の構築・強化のため、地域住民に対する防火・防災意識の高揚に努めるものとする。

我が国の文化財建造物はその多くが木造であり、美術工芸品についても木や紙又は布等の燃えやすい材質により造られているものが多く、火災により焼損する危険をはらんでいます。

このような文化財を災害から守るためには、文化財関係者や関係機関だけではなく、文化財周辺の地域住民との連携・協力が必要となりますので、「文化財防火デー」を機に、文化財愛護の意識や、防火・防災意識の高揚に努めてください。

## ○第62回文化財防火デー

### 主な消防訓練場所（予定）

場所：根来寺（和歌山県岩出市）

日時：平成28年1月26日（火）13時30分～

その他地域における訓練等の予定につきましては、最寄の消防署へお問い合わせ下さい。

問い合わせ先 消防庁予防課予防係 齋藤、竹葉  
TEL: 03-5253-7523

# 「消防団員入団促進キャンペーン」の実施

総務省消防庁地域防災室

消防庁では、平成25年12月に成立した「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」の趣旨を踏まえ、地域防災力の充実強化に取り組んでいるところですが、本年度も引き続き、関係団体と連携して平成28年1月から3月までの間、同キャンペーンを実施します。

## 【推進事項】

### 1 ポスター及びリーフレット等を活用した積極的な広報活動

ポスター等に加え、各地方公共団体の広報誌、ホームページ、ケーブルテレビ、ラジオ、広報車の巡回等あらゆる広報媒体を積極的に活用した広報を実施します。

### 2 女性、学生及び公務員等の積極的な入団促進

消防団員の入団促進に当たっては、自主防災組織との連携等地域ぐるみの取組、被用者団員の増加に伴う消防団活動に対する事業所等の理解促進、女性、大学生及び公務員等をはじめとした入団促進について特に配慮します。

### 3 学生消防団活動認証制度の活用

「学生消防団活動認証制度」は、真摯かつ継続的に消防団活動に取り組み、顕著な実績を取め、地域社会へ多大なる貢献をした大学生、大学院生又は専門学生について、市町村がその実績を認証することにより、就職活動を支援することを目的とした制度です。

### 4 消防団協力事業所表示制度の活用

「消防団協力事業所表示制度」は、従業員の入団促進、消防団活動への配慮等、事業所として消防団活動に協力することが社会貢献として広く認められ、地域からの信頼性の向上につなげるとともに、事業所の協力を通じて、地域の防災体制が一層充実強化することを目的としている制度です。



「消防団協力事業所表示制度」  
表示マーク

消防団員入団促進ポスター



リーフレット (表裏)



問い合わせ先 消防庁国民保護・防災部地域防 災室消防団係  
(猪鼻課長補佐、山下係長、高村事務官)  
TEL:03-5253-7561 FAX:03-5253-7576 E-mail: syobodan@ml.soumu.go.jp

うちの

# 名物団員



伊勢原市消防団 団員

加藤 京子



いつも元気でパワフルな加藤京子さん。彼女に出会った人は皆、笑みがこぼれてしまう、笑顔がとっても素敵な名物団員です。

実はこの加藤さん、消防一家で、お父さんは伊勢原市消防団の元団長、ご主人は現役の団長、そして長男は伊勢原市の消防職員なのです。



家業は花園を営み、団長であるご主人と観賞用の花はもちろん、エディブルフラワー（食用花）の栽培も手がけており、テレビでも多く紹介されています。

もし料理の中に、食べられるお花が出てきたら、それは加藤京子さんが作ったお花かもしれません。

伊勢原市消防団 団員

片野 香里



夫婦でトマト農家を営む片野香里さんは、平成27年度に伊勢原市消防団に入団した新入団員です。

ご主人も伊勢原市消防団の副団長を務め、家業・消防団共に夫婦揃って活動しています。

また、片野夫妻は、「持続性の高い農業生産方式の導入に関する計画」で認定された農業者でもあり、片野農園のトマトは甘くて美味しいと評判です。

いつも元気でパワフルなかおりちゃん。



彼女の明るさと元気の源はやはりトマトでしょうか。



## 四日市市消防団 団員

坂 典泰



高校入学を機に始めたウェイトリフティングで、昨年の長崎、今年のと歌山と国体を二連覇！！

細身でありながら、スナッチ121kg、ジャック155kgを挙げる強者です。

現在は、母校である四日市工業高校で教鞭をとる傍ら、クラブの副顧問として後進を指導しています。

来年も三連覇目指して頑張ってもらいつつ、消防団の操法競技大会での活躍も期待しています。

## 桑名市女性消防団 団員

内藤 幸子



「その手は桑名の焼き蛤」で有名な蛤を使った、火災予防啓発グッズを手作りする、桑名市女性消防団の内藤幸子さんを紹介します。

三重県の北部、大型レジャー施設長島スパランドのすぐ近くに在住の内藤さんは、蛤の貝殻で、高齢者宅訪問・イベント等で配布するマスコット作りを、得意の手芸を生かし、団員の中心となり取り組んでいます。受け取っていただいた方々から

は、とても喜んでいただいている啓発グッズです。

また、長男さんは、地域の若手イケメン分団長で、親子で、消防団活動に頑張っています。

## 野洲市消防団 団本部 副団長

岩井 和子



野洲市消防団の女性分団である『やすファイアーレディーズ分団』は平成5年に創設されました。その創設以来、23年の長きにわたり女性分団の礎を築いてこられました岩井副団長を紹介します。

女性分団創設当時は活動も少なく、また、男性社会というイメージが強かったため、非常に苦勞されたとのこと。しかし、持ち前の明るさと積極的な活動により、今では独り暮らし宅や幼稚園等への防火訪問、市民救急指導員として救命講習など多岐にわたる活動をされています。

さらに、平成27年4月には全国的にも珍しい女性副団長に昇任され、今までの経験を活かし、他市消防団との連携調整を図るなど、今後の女性消防団員の活動をより良くするため活動を展開されています。今後もますます女性団員の活動が飛躍するよう期待しています。



# 消防団の広場

## 北海道「結成20周年日の操法大会」



遠軽地区広域組合遠軽町  
消防団  
丸瀬布分団 部長

小野 都



私たちが住む丸瀬布は、北海道の東部に位置し、平成17年に旧丸瀬布町を含む4町村が合併して誕生した、人口約21,000人の遠軽町にあります。

北海道遺産である「森林鉄道蒸気機関車「兩宮21号」をはじめ「森林公園いこいの森」「昆虫生態館」など自然と文化に溢れたまち「丸瀬布」は、平成7年に地域の女性10名が入団し、旧丸瀬布町消防団予防部が発足。その10年後、遠軽町消防団と統合し、現在は丸瀬布分団として男性団員のほか20代から60代までの13名の女性消防団員が所属し活動しています。

「地域の安心、安全」のため、私たち女性消防団員は災害活動における後方支援のほか、普段は高齢者宅への防火訪問や、幼年消防クラブの保育園児とともに事業所を訪ね火災予防を啓発するなど、地域に密着した活動を行っており、特に、春と秋の火災予防運動期間中は防火訪問の際に、手作りの火災予防広報用品を高齢者に手渡すなど、女性ならではのソフトな面を活かした防火活動がとても喜ばれています。

丸瀬布に女性団員が結成されて20年目を迎えた年に、全国女性消防操法大会に出場する



全国女性消防操法大会

機会を得た私たちは「優勝」を合言葉に、職員や分団幹部の指導のもと日々厳しい訓練を仲間と乗り越えながら、多くの方々から寄せられる心温まる声援を胸に大会に臨みました。

上位入賞はかありませんでしたが、遠軽町丸瀬布女性消防隊の隊長として日々の訓練で成長していく隊員の姿や、結束力が強まっていく様子を身近で感じ、また、諦めず、最後までやり切った隊員にはとても誇りを持っています。

本大会を通じて仲間との絆が一段と深くなったことが、今後の消防活動に必ず活かされるものと信じ、これからも頑張っていきたいと思います。



全国女性消防操法大会

平成27年度 全国統一防火標語

「無防備な 心に火災が かくれんぼ」

## 2月の日本消防協会関係行事

2月3日(水)～5日(金) 第15回消防団幹部候補中央特別研修(男性の部)  
2月15日(月)午後 第2回福祉共済事業等運営委員会  
2月17日(水)～19日(金) 第15回消防団幹部候補中央特別研修(女性の部)  
2月24日(水)午後 消防育英会理事会

## 編集後記

新年、明けましておめでとうございます。

旧年中は、機関誌「日本消防」をご愛読いただきましてありがとうございました。本年も様々な情報を提供できるよう努力してまいりますので、よろしくをお願いします。

さて、年が明けた自分とつい先月の自分では、時間的にはそんなに変わらないのに、年末年始をはさむと不思議とあらたまった気持ちになります。今年こそは、年始に立てた目標を着実に進めるため、一か月ごと・一週間ごとの目標を立てモチベーションを上げていこうと思っております。

新年を迎え、災害のない平穏無事な一年を願い、全国各地で恒例の消防出初式が開催されております。私は、初めて東京消防出初式を見学し、分列行進、はしごのり、消防演技、一斉放水など、スケールの大きさと内容に圧倒され、感心しました。そして、地方の、地域ならではの出初式にも思いを馳せました。

春の足あとはまだもう少し先ですが、地域地域の事情や顔が見える関係を大切に、皆様が今年一年ご活躍されますことを念願しております。

(M.M)

## 購読募集

購読を希望される方は、(公財)日本消防協会へお問い合わせください。

※ 年間購読料(送料込) 2,448円

(問合せ先) 総務部企画担当 03-3503-1481

## 寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取り組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受付しています。

soumu@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第六十九巻第一号  
平成二十八年一月五日印刷  
平成二十八年一月十日発行

編集人 武居 丈二

発行所 (公財)日本消防協会  
東京都港区虎ノ門二丁目十九番十六  
電話 〇三(353)一四八二(代)

印刷所  
千葉県稲毛区山王町一〇二一五  
株式会社白樺写真工芸  
電話 〇四三(423)一一〇一(代)

# 消防団員・消防職員の皆様の火災共済

消防団員  
消防職員  
ならどなたでも  
加入できます

まさかの時お役に立ちます。

風水雪害等共済金付

掛金25口、2,500円 (56%以上の焼損)  
火災共済金375万円のお支払い **1500倍補償**

**B型火災共済** (消防団 消防本部) 毎に皆で加入

キャンペーン期間中B型火災共済に加入しますと、テントを消防団等に配布します。

(加入者100人以上または、掛金10万円以上が対象)

掛金は、5口500円から5口毎、25口2,500円まで選択できます。

落雷の損害  
にも対応!!

建物と動産の配分は常に4:1とする契約となります。

お申し込みは、所属の消防団担当から都道府県支部(消防協会)へ。



(三方の横幕も付属します。)

お支払  
対象

●火災共済金

火災・落雷・爆発・破裂

●風水雪害等共済金

風災・水災・雪災・車両飛び込み・航空機墜落等

生活協同組合 全日本消防人共済会 TEL 03-3503-1439  
詳しくはホームページをご覧ください <http://www.shouboujin.or.jp/>

消防団員・消防職員だからこそ加入できる

## 消防個人年金

積立金には予定利率(年1.25%) + 配当率が適用されます。

老後生活に向けた  
計画的な財産形成  
が可能です。

月払の場合、  
毎月一万円(ゆうちょ  
銀行は五千円)から  
ご加入いただけます。

給付金の受取りは、  
年金(6種類)又は  
一時金からご選択  
いただけます。

途中で脱退しても、  
積立金(脱退一時金)  
が受け取れます。

税制適格コースは  
個人年金保険料控除  
自由選択コースは  
一般の生命保険料控除  
の対象となります。

消防団員、消防職員  
の退団・退職後も  
継続できます。

(お問い合わせ先) 公益財団法人 日本消防協会 年金共済部

0120-658-494 平日 9:00~17:00